

2017年5月15日

各位

会社名 第一生命ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 稲垣 精二
(コード番号：8750 東証第一部)

2017年3月期 決算補足資料 (第一生命ホールディングス株式会社分)



2017年5月15日

第一生命ホールディングス 2017年3月期決算を発表

第一生命ホールディングス株式会社(社長: 稲垣 精二)は、5月15日に2017年3月期決算を発表しました。以下は、社長の稲垣からステークホルダーの皆さまへのメッセージです。

1. 2017年3月期決算について

国内生命保険事業は、戦略的に商品構成をコントロールし、減収ながら増益を達成しました。海外生命保険事業は、運用収支の改善もあり、想定を上回る決算となりました。低金利環境が長期化する難しい事業環境の下、事業分散・地域分散を進めた成果として、連結純利益は二桁増益を達成しました。

平素より、私ども第一生命グループをお引き立ていただき、ありがとうございます。

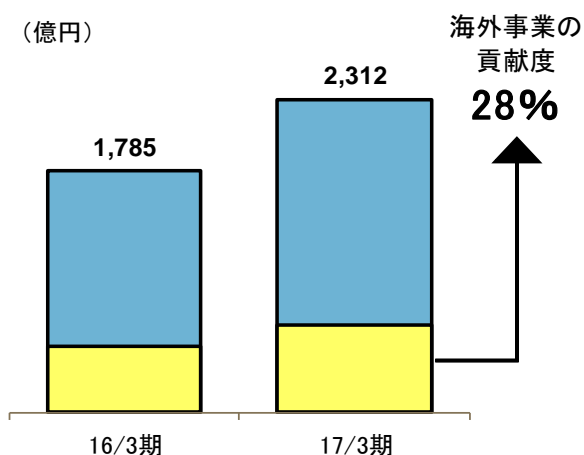
2017年3月期を振り返ると、6月には英国が国民投票でEU離脱を選択し、11月には米国大統領選など、世界の政治・経済が大きく変わる節目となるイベントが相次ぎました。ただし、各国の中央銀行が金融緩和を通じて支えたことから、内外の経済は緩やかな回復基調を辿りました。日本銀行は9月に金融政策の総括的検証を行い、イールドカーブ・コントロールとあわせて物価が安定的に2%を超えるまで緩和政策を継続する方針が発表されました。11月の米国大統領選後は内外で金融環境が改善しましたが、国内金利は比較的緩やかな上昇にとどまりました。

こうした環境にあって、国内生命保険事業では、根強い貯蓄ニーズに応えながらも戦略的に一時払いの円建て貯蓄性保険商品の販売を抑制し、保障商品への販売シフトに向けて法人向け介護保障新商品を販売しました。この結果、第三分野の新契約年換算保険料は、2割増と一定の成果も現れています。海外生命保険事業でも、個人向け保険販売が順調な拡大を見せ、また、販売チャネルの拡充にも取り組んできました。

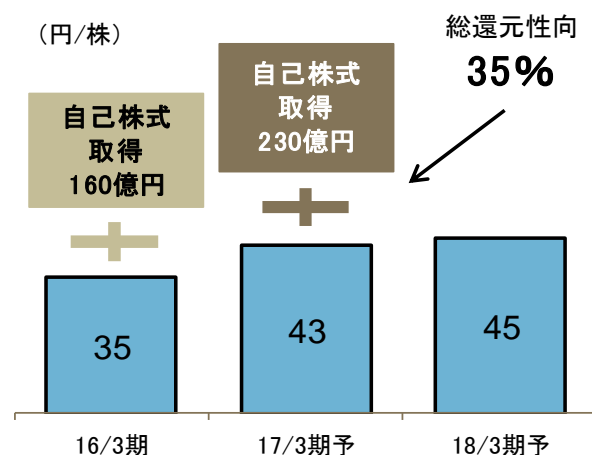
連結業績は、前期比減収のところ、同約30%の増益となりました。当社は、以前からグループの事業分散・地域分散を進めてきました。その結果として、当期において、海外生命保険事業や海外のアセットマネジメント事業の修正利益は、連結純利益の28%を占めるに至っております。これが、低金利環境が長期化する難しい事業環境下においても、高い増益を実現できた要因であると考えています。

経常収益は、上記のように国内生命保険事業で戦略的な商品シフトを行った結果として減少しましたが、通期予想に対する達成率は100%を上回る結果となりました。利益面では、為替や株価などの変動を受けて第一生命の純利益は減益となりました。一方、第一フロンティア生命では、内外での金利上昇を受けて市場価格調整に係る

親会社株主に帰属する当期純利益



株主還元



責任準備金を戻入れ、大幅増益となりました。海外生命保険事業も運用収支が改善したほか、豪州では個人向け生命保険の収支が改善し、米国では期初に買収完了した定期保険ブロックが利益貢献するなど、いずれも通期予想を上回る利益を計上しました。

2016年10月の持株会社化を受け、グループ内キャッシュフロー・マネジメントを強化するため、株主還元の原資を新たに定義しました。株主の皆さまへの還元は、「グループ修正利益」というグループ企業のキャッシュベースの実質利益を原則とし、安定した株主還元を目指していきます。2017年3月期のグループ修正利益は2,101億円となりました。

二桁増益の決算を受け1株当たり配当は、2016年3月期実績の35円に対して、5円増配の40円としていた予想を上方修正し、8円増配の43円としました。また、230億円を上限とする自己株式取得を決議しました。現金配当総額と自己株式取得額を合わせた総還元性向は、グループ修正利益に対して35%となる見込みです。

2. 中期経営計画「D-Ambitious」の進捗について

当社は、2016年10月1日に第一生命保険株式会社から商号変更し、持株会社となりました。第一生命グループは、この持株会社体制への移行を2010年4月の株式会社化・上場続く“新創業第2ステージ”と位置付け、グループを挙げて更なる成長加速に取り組んでいます。持株会社体制への移行と同時に監査等委員会設置会社となりましたが、これは成長に向けて多様化・複線化するグループ会社の監督機能を強化し、持続的な価値創造の実現につなげるものです。

2015～2017年度中期経営計画で掲げた戦略については、2017年3月期下半期においても以下の通り進展が見られました。

(1) 国内生命保険事業

国内生保各社は、お客さまのニーズに応えた商品・サービスの提供を通じ、お客さまの安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献しています。

- 第一生命では 2016 年9月、法人のお客さま向けに介護等のリスクに年金で備えることができる新商品「TOP PLAN エクシードU」を発売しました。また、市中金利の動向や標準利率の改定を踏まえ、2017 年4月から販売される個人年金や終身保険等の予定利率を見直し、保険料率の改定と合わせて、一部商品については商品の魅力を向上させる改訂を行うこととしました。
- 第一生命では、お客さまの健康増進をサポートするため、2017 年3月、スマートフォン専用アプリ「健康第一」を公開しました。スマートフォンやウェアラブル端末と連動して毎日の歩数を記録し、歩数実績に応じてスタンプを発行することで、お客さまによる自発的な健康増進意識・行動の変容につなげていただくものです。スマートフォンで撮影した写真を利用してBMIの変化と年齢の経過による将来の自分を確認するFaceAI機能を皮切りに、今後も機能を強化していきます。
- 第一生命では従来から、地域の課題解決に向け、がん啓発を始め高齢者見守り、女性活躍推進、子育て推進などに関して各都道府県と協定等を結んできましたが、2016 年度に東京都等を加え、2017 年3月までに、全国 47 都道府県と協定を結びました。
- ネオファースト生命は、2016 年 12 月、実年齢に代えて健康年齢を使用した新商品「カラダ革命」を発売しました。健康年齢^{®(注)}が若いほど保険料が安くなる、本邦生命保険業界初の保険商品として注目されています。このような商品が開発できたのは、グループ全体で取り組んでいる、保険ビジネスとテクノロジーの両面から生命保険事業独自のイノベーションを創出する“*InsTech*”の成果でもあります。
- 第一生命グループは、「お客さま第一主義」を経営理念に掲げ、お客さまとお客さまの大切な人々の「一生のパートナー」であり続けることをグループミッションとして位置付けてきました。2017年3月には、当社グループにおけるお客さま本位の業務運営を一層強化し、お客さまから選ばれ続ける保険グループとなるため、第一生命グループの国内3生命保険会社に共通する方針として「お客さま第一の業務運営方針」を策定しました。

(注)健康年齢は、株式会社日本医療データセンターの登録商標です。

(2) 海外生命保険事業

日本・北米・アジアパシフィック地域の3拠点体制の下、地域統括拠点と連携のうえ、安定性と成長性のバランスの取れた事業運営を推進しています。

- アジアパシフィック地域においては、インドにおける関連会社であるスター・ユニオン・第一ライフ社への出資比率の引き上げ(45.94%)、カンボジアおよびミャンマーへの駐在員事務所の設立等に取り組んできました。

(3) 資産運用・アセットマネジメント事業

機動的なリスク資産への資金配分等による収益力向上を図るとともに、新規分野・成長分野への投資を通じた運用高度化に取り組みました。また責任ある機関投資家として ESG 投資に積極的に取り組むとともに、専門部署の設置等により、責任投資に関するガバナンス態勢を強化しました。

- 第一生命は、低金利環境が長期化する厳しい運用環境のなか、市場動向に応じた国内外株式等のリスク性資産への機動的な資金配分や為替ヘッジ付き外国債券への選別的な投資等により収益性向上を図るとともに、国内外のインフラ関連投資やプロジェクトファイナンス等、新たな資金需要に対応する多様な投資案件に取り組み、運用手法の高度化・多角化を通じて資産運用収益改善・企業価値向上を目指しています。
- また、アジア開発銀行が発行する「ヘルス・ボンド」への投資を行うなど、ESG 投資にも積極的に取り組むとともに、2018 年3月期より、責任投資に関するガバナンス態勢の一層の強化を目的として、スチュワードシップ活動の専任組織である「責任投資推進室」と、議決権行使に関する重要な方針や議案の審議等を行う「責任投資委員会」(過半数を社外監査役で構成する監査役会が適正性監査を実施)を設置しました。今後もこれらの取り組みを通じて、機関投資家としての社会的責任を果たしていきます。

このように多様な面で進捗が見られた反面、「D-Ambitious」を発表した 2015 年5月と比べ、内外の政治・経済・金融環境は大きく変動しました。日本銀行が量的・質的緩和を打ち出した当時、当社は比較的短期間で金利は正常化に向かうとのシナリオを前提にしていたが、マイナス金利の導入やその後の総括的検証を受け、超低金利環境が長期にわたり維持される可能性を視野に入れる必要が出てきました。

こうした金融環境下にあっては、短期的な環境変化に振られる事なく中長期的視点に立って成長戦略を実行し、利益成長を通じて健全性を確保しつつ、株主・投資家の皆さまに対する持続的な価値創造を行うことが必要です。このため、2017 年3月期決算より、D-Ambitious における主要な経営目標について変更を行いました。詳しくは3月31日発表のプレスリリースをご参照下さい。この変更は、中期経営計画の本来の目的である、持続可能な利益成長や健全性の実現に向け、一部計数目標について3年という時間軸から離れ、中長期的に目指す姿として位置づけを変更するとともに、安定した株主還元実現に向けて利益目標の定義を変更すること等を趣旨とするものです。

[第一生命グループ 2015-17 年度中期経営計画「D-Ambitious」進捗報告と経営目標\(計数目標\)の変更について](#)

3. 最後に

今年度は、第一生命グループ中期経営計画「D-Ambitious」の最終年度にあたります。国内生命保険事業では営業職の強化に加え、4月には保険料率の改定と合わせて一部商品の商品性を高める改訂を行い、保障性商品への営業戦略シフトを一層推進させています。保有ベースの拡大を通じて中長期的な企業価値向上を実現すべく、販売促進に取り組めます。海外生命保険事業でも、既存チャネルに加えて提携等の新規チャネルを拡充し、先進国市場・新興国市場においてバランスの取れた成長を目指します。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(決算の詳細につきましては、次頁からの解説をご覧ください。)

《2017年3月期 決算解説》

第一生命グループ業績ハイライト

	(億円)				<参考>	
	16/3期	17/3期(a)	前期比		2016/11/14 発表予想(b)	達成率(a/b)
連結経常収益	73,339	64,567	△ 8,771	△ 12%	62,770	103%
連結経常利益	4,181	4,253	+ 71	+ 2%	4,060	105%
連結純利益 ^(注)	1,785	2,312	+ 527	+ 30%	1,970	117%

(注) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

1. 連結業績ハイライト

第一生命グループの2017年3月期における連結経常収益は、6兆4,567億円(前期比12%減)となりました。低金利環境を受けて国内生命保険事業で一時払いの円建貯蓄性保険商品の販売を抑制したことが減収の主な要因です。連結経常利益は、同2%増の4,253億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、同30%増の2,312億円となりました。米国大統領選以降、内外の金融環境は改善に向かいました。これを受け、第一フロンティア生命で責任準備金を戻し入れ、また海外生命保険事業でも各社で運用収支が改善し、利益貢献が拡大したことが増益の要因です。2016年11月14日に発表した通期予想に対して、経常利益・純利益いずれも105%、117%と高い達成率となりました。

第一生命グループ各社の業績

	【第一生命】 ⁽¹⁾			【第一フロンティア生命】			【米プロテクティブ】 ⁽²⁾		【豪TAL】 ⁽²⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万米ドル)		(百万豪ドル)			(億円)		
	16/3期	17/3期	前期比	16/3期	17/3期	前期比	16/3期 (2-12月)	17/3期	16/3期	17/3期	前期比	16/3期	17/3期	前期比
経常収益	42,657	39,467	△7%	19,675	11,832	△40%	6,784	8,873	3,231	3,574	+11%	73,339	64,567	△12%
経常利益	3,442	2,818	△18%	296	637	+115%	399	594	152	211	+38%	4,181	4,253	+2%
純利益 ⁽³⁾	1,291	1,171	△9%	243	502	+107%	268	393	119	148	+24%	1,785	2,312	+30%

- (1) 持株会社体制への移行に伴い、第一生命の業績については、旧第一生命および第一生命分割準備会社の上半期業績と、現第一生命の下半期業績を単純合算した未監査の数値を記載しています。
- (2) 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=120.61円(16/3期)、116.49円(17/3期)、1豪ドル=86.25円(16/3期)、85.84円(17/3期)で円換算しています。
- (3) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

2. グループ各社の業績

(1) 第一生命

一時払い商品の販売を抑制したことなどにより、保険料等収入が前年同期比11%減少したことを主因として経常収益は減少しました。低金利に伴う退職給付費用負担増、営業職員チャネル強化に向けた先行投資としての人件費増加等により保険関係損益は減少しました。

また、為替・株価等、経済環境の変動の影響で運用収支はインカム・キャピタル共に悪化しました。これを追加責任準備金繰入額の減少、繰延税金資産取崩し効果の反動で相殺し、当期純利益は小幅減益となりました。

(2) 第一フロンティア生命

当期の保険料収入は、前年比で大幅に減少しました。低金利を背景に円建て定額商品の販売を抑制したほか、金融市場が不透明となったため、銀行窓販市場においてお客さまがリスクを回避する動きが広まり、変額商品の販売が減少しました。一方、米国大統領選後は内外で金利が上昇し、市場価格調整に係る責任準備金が戻入れとなり、当期純利益は前期比で増加しました。

(3) プロテクティブ

生保事業と年金事業が予算未達となりましたが、ジェンワースの保険ブロック買収効果の貢献や運用収支の改善により買収事業が予算超過、低金利環境でニーズの高まったステーブルバリュー事業も予算超過となり、全体として予算を上回る決算となりました。金融環境の改善を受けた運用収支の改善が貢献していますが、資産運用に関する利益には、同社が契約する再保険会社に帰属すべき一時的な利益が含まれています。この利益は、今後 10 年以上かけて再保険会社へ分割して支払を行います。

(4) TAL

業績は増収・増益となりました。経済環境を背景に、所得保障保険などの請求が高水準で推移していますが、期末にかけて個人保険部門の死亡保険で収支が大きく改善しました。また社債市場のスプレッド改善を背景に運用収支も改善し、純利益は前年比 24% 増となりました。

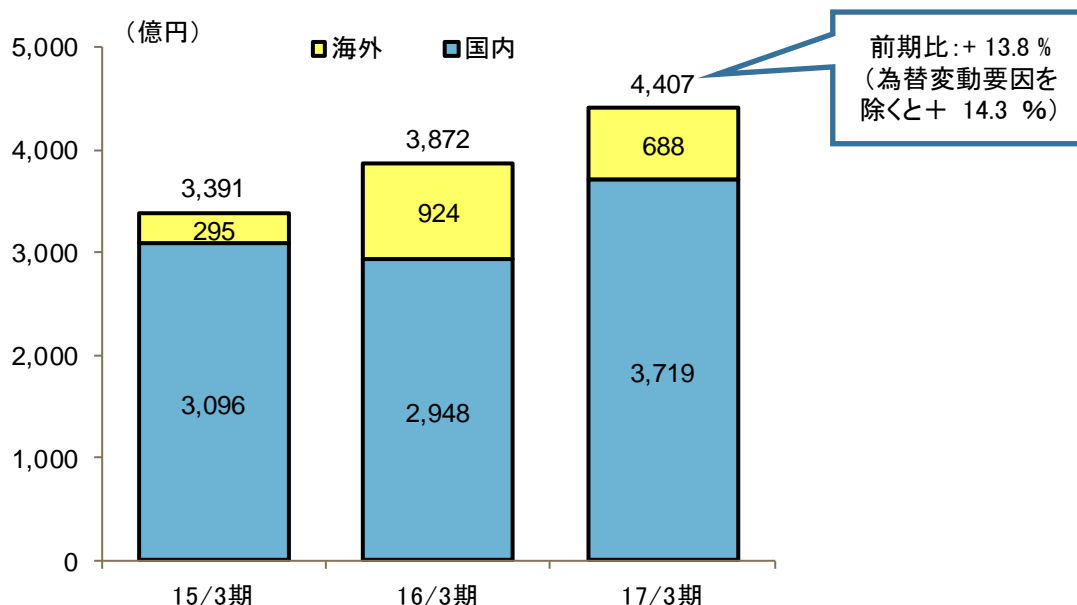
3. グループ営業業績

第一生命グループの契約動向を、新契約年換算保険料を用いて説明します。

国内生命保険事業では、第一生命・第一フロンティア生命で円建て一時払い貯蓄性保険商品の販売を抑制しました。金融市場が不透明となったことを背景に、銀行窓販市場では変額商品の販売が落ち込んでいます。反面、根強い貯蓄ニーズを背景に、第一生命では平準払いの個人年金、第一フロンティア生命では外貨建定額年金の販売が伸びています。一方、保障性商品の販売に重点を置く営業戦略も効果を見せ始めており、国内第三分野の新契約年換算保険料は、前期比約2割増となりました。

海外生命保険事業では、豪州 TAL の前期業績に団体保険ビジネスにおける大型の新契約が含まれており、その反動から減少しています。また、プロテクティブでも規制環境の変化を控えた動きもあり、変額年金の販売が落ち込みました。しかし、プロテクティブではコストコを皮切りに提携販売先が拡大しており、同様の動きは、TAL や第一生命ベトナムでも進行しています。また、第一生命ベトナムは、個人代理店の販売が進展し、高水準の伸びを達成しました。

新契約年換算保険料



4. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに対して「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

第一生命のソルベンシー・マージン比率は、850.5%となりました。前期末の900.8%と比較すると減少していますが、引き続き高い水準を維持しており、十分な財務基盤と健全性を確保しています。減少の主な要因は、持株会社体制移行に伴う株主資本の変動によるものです。第一生命ホールディングスの連結ソルベンシー・マージン比率は、749.2%でした。

5. グループ・エンベディッド・バリュー

(億円)

	16/3末	17/3末	増減
グループ・エンベディッド・バリュー	46,461	54,954	+8,493

エンベディッド・バリュー(EV)とは、生命保険会社の企業価値を表す指標の一つであり、過去に実現した利益の蓄積額と、保険契約の保有により生じる将来利益の見積り額の合計です。

第一生命グループのエンベディッド・バリューは約5.5兆円となりました。新契約の獲得や金融環境の改善を背景に前期末の4.6兆円から約8,500億円の改善となりました。

6. 業績予想

2018年3月期の業績は、減収・減益を予想しています。第一フロンティア生命、海外生命保険事業において、前年度に当初予想を上回る業績を計上しましたが、その後の内外の経済金融環境を考慮し、その反動減を予想しています。

2018年3月期の株主還元は、総還元性向40%を達成すべく、現金配当は2円増配となる45円を予想しています。

連結業績予想

	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)	増減
(億円)			
経常収益	64,567	60,040	△ 4,527
経常利益	4,253	3,630	△ 623
純利益	2,312	1,790	△ 522
(円)			
1株当たり純利益	196.62	152.32	△ 44.30
1株当たり期末配当金	43	45	+2

(※) 本表における純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益をさします。また、1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式、信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式及び自己名義株式を除いています。

(要約)連結損益計算書・連結貸借対照表

	16/3期	17/3期	増減
(億円)			
経常収益	73,339	64,567	△ 8,771
保険料等収入	55,860	44,687	△ 11,172
資産運用収益	13,448	16,261	+2,813
うち利息・配当金等収入	10,753	11,077	+324
うち有価証券売却益	2,224	2,237	+12
うち特別勘定資産運用益	-	1,157	+1,157
その他経常収益	4,030	3,618	△ 412
経常費用	69,157	60,314	△ 8,843
うち保険金等支払金	38,309	36,183	△ 2,125
うち責任準備金等繰入額	14,963	10,167	△ 4,796
うち資産運用費用	5,240	3,421	△ 1,819
うち有価証券売却損	642	942	+299
うち有価証券評価損	41	271	+230
うち金融派生商品費用	538	294	△ 243
うち為替差損	1,804	737	△ 1,067
うち特別勘定資産運用損	961	-	△ 961
うち事業費	6,613	6,509	△ 103
経常利益	4,181	4,253	+71
特別利益	3	174	+171
特別損失	552	474	△ 78
契約者配当準備金繰入額	975	850	△ 125
税金等調整前当期純利益	2,657	3,103	+446
法人税等合計	871	790	△ 81
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0	+0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,785	2,312	+527

	16/3末	17/3末	増減
(億円)			
資産の部合計	499,249	519,858	+20,609
うち現預金・コール	9,603	9,804	+201
うち買入金銭債権	2,392	1,982	△ 410
うち有価証券	415,600	436,509	+20,909
うち貸付金	37,155	35,666	△ 1,489
うち有形固定資産	11,788	11,384	△ 404
うち繰延税金資産	13	1	△ 11
負債の部合計	469,919	488,485	+18,566
うち保険契約準備金	438,940	446,941	+8,001
うち責任準備金	429,225	437,402	+8,177
うち社債	4,856	9,897	+5,040
うちその他負債	14,866	18,520	+3,654
うち退職給付に係る負債	4,438	4,215	△ 222
うち価格変動準備金	1,552	1,746	+194
うち繰延税金負債	2,707	3,244	+537
純資産の部合計	29,329	31,372	+2,043
うち株主資本合計	11,292	13,007	+1,714
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	18,352	+325
うちその他有価証券評価差額金	18,400	19,060	+660
うち土地再評価差額金	△ 164	△ 175	△ 11

(注) 以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。益又は損が発生してはいますが、業績に大きな影響を与えるものではありません。

- ・特別勘定資産運用益/損
- ・為替差益/損
- ・金融派生商品収益/費用

《本資料の問い合わせ先》

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IR グループ

電話： 050-3780-6930

免責事項

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2017年3月期 決算報告

2017/5/15

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings

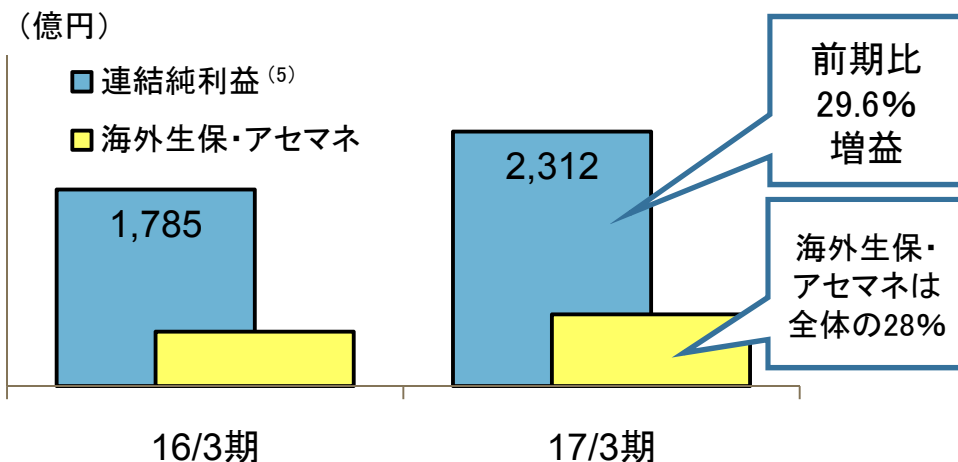


連結業績

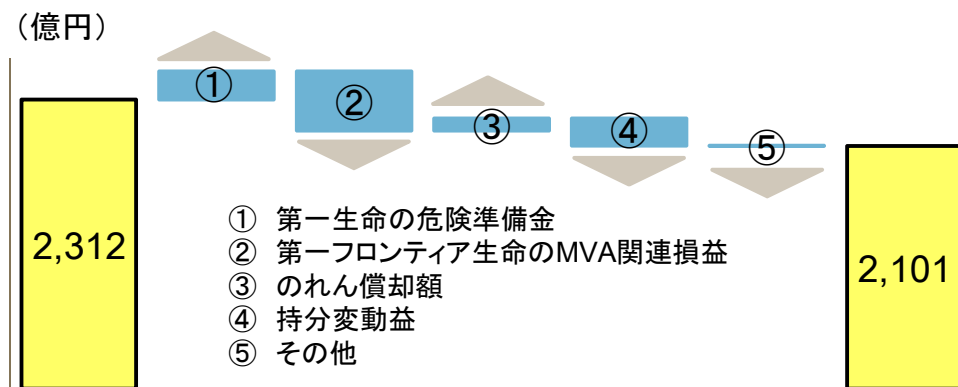


第一生命グループ業績 - 業績ハイライト

事業分散・地域分散の成果として大幅増益



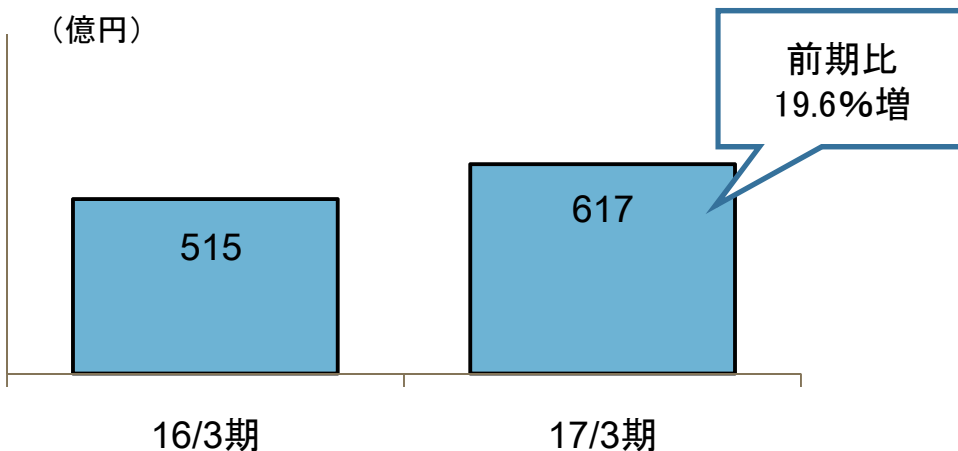
グループ修正利益への調整



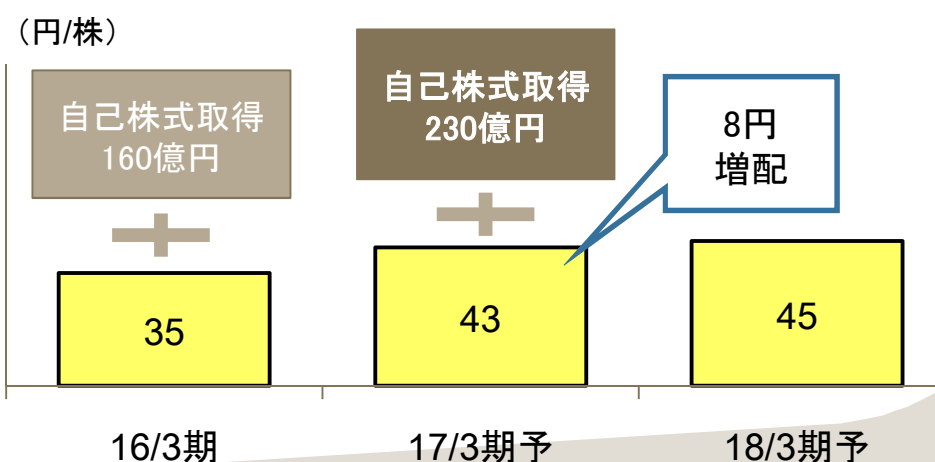
親会社株主に帰属する当期純利益

グループ修正利益

国内第三分野新契約年換算保険料は約2割増



株主還元は総額737億円、還元性向は35%



※ 42ページの脚注をご覧ください。



- グループ業績は減収・増益。連結経常収益は、戦略的に貯蓄性商品の販売抑制を行い減収も、通期予想に対して想定線。連結純利益は、一時的要因があるものの、第一生命グループが進めてきた事業分散・地域分散の成果もあって、前期比29.6%増と高い伸びを達成。
- 株主還元原資として新たに定義した「グループ修正利益」は2,101億円。1株当たり配当金は、8円増配の43円とし、230億円を上限とする自己株式取得を決議。総還元額は737億円、総還元性向は35%となる見込み。
- 2017年3月末のグループ・エンベディッド・バリューは、新契約価値の積み上がりや経済条件の改善により約5.5兆円と前期末から増加。

第一生命グループ業績 - 連結主要業績(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

連結損益計算書

(億円)

	16/3期	17/3期	増減
経常収益	73,339	64,567	△8,771
保険料等収入	55,860	44,687	△11,172
資産運用収益	13,448	16,261	+2,813
うち利息・配当金等収入	10,753	11,077	+324
うち有価証券売却益	2,224	2,237	+12
うち特別勘定資産運用益	-	1,157	+1,157
その他経常収益	4,030	3,618	△412
経常費用	69,157	60,314	△8,843
うち保険金等支払金	38,309	36,183	△2,125
うち責任準備金等繰入額	14,963	10,167	△4,796
うち資産運用費用	5,240	3,421	△1,819
うち有価証券売却損	642	942	+299
うち有価証券評価損	41	271	+230
うち金融派生商品費用	538	294	△243
うち為替差損	1,804	737	△1,067
うち特別勘定資産運用損	961	-	△961
うち事業費	6,613	6,509	△103
経常利益	4,181	4,253	+71
特別利益	3	174	+171
特別損失	552	474	△78
契約者配当準備金繰入額	975	850	△125
税金等調整前当期純利益	2,657	3,103	+446
法人税等合計	871	790	△81
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0	+0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,785	2,312	+527

連結貸借対照表

(億円)

	16/3末	17/3末	増減
資産の部合計	499,249	519,858	+20,609
うち現預金・コール	9,603	9,804	+201
うち買入金銭債権	2,392	1,982	△410
うち有価証券	415,600	436,509	+20,909
うち貸付金	37,155	35,666	△1,489
うち有形固定資産	11,788	11,384	△404
うち繰延税金資産	13	1	△11
負債の部合計	469,919	488,485	+18,566
うち保険契約準備金	438,940	446,941	+8,001
うち責任準備金	429,225	437,402	+8,177
うち社債	4,856	9,897	+5,040
うちその他負債	14,866	18,520	+3,654
うち退職給付に係る負債	4,438	4,215	△222
うち価格変動準備金	1,552	1,746	+194
うち繰延税金負債	2,707	3,244	+537
純資産の部合計	29,329	31,372	+2,043
うち株主資本合計	11,292	13,007	+1,714
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	18,352	+325
うちその他有価証券評価差額金	18,400	19,060	+660
うち土地再評価差額金	△164	△175	△11

※ 42ページの脚注をご覧ください。

第一生命グループ業績 - 連結主要業績



Dai-ichi Life
Holdings

- 連結経常収益は、戦略的な商品構成シフトを進める中、通期予想に対して想定線
- 第一生命の減益を第一フロンティア、海外生命保険事業の増益で相殺し、大幅増益を達成

(億円) <参考>

	16/3期	17/3期(a)	前期比		2016/11/14 発表予想(b)	達成率(a/b)
			△	%		
連結経常収益	73,339	64,567	△ 8,771	△ 12%	62,770	103%
第一生命 ⁽¹⁾	42,657	39,467	△ 3,190	△ 7%	37,960	104%
第一フロンティア生命	19,675	11,832	△ 7,843	△ 40%	12,180	97%
プロテクティブ (百万米ドル) ^{(2) (4)}	6,784	8,873	-	-	8,460	105%
TAL (百万豪ドル) ^{(3) (4)}	3,231	3,574	+ 342	+ 11%	3,900	92%
連結経常利益	4,181	4,253	+ 71	+ 2%	4,060	105%
第一生命	3,442	2,818	△ 624	△ 18%	3,240	87%
第一フロンティア生命	296	637	+ 340	+ 115%	210	304%
プロテクティブ (百万米ドル)	399	594	-	-	460	129%
TAL (百万豪ドル)	152	211	+ 58	+ 38%	180	117%
連結純利益⁽⁵⁾	1,785	2,312	+ 527	+ 30%	1,970	117%
第一生命	1,291	1,171	△ 119	△ 9%	1,330	88%
第一フロンティア生命	243	502	+ 259	+ 107%	150	335%
プロテクティブ (百万米ドル)	268	393	-	-	300	131%
TAL (百万豪ドル)	119	148	+ 28	+ 24%	120	124%

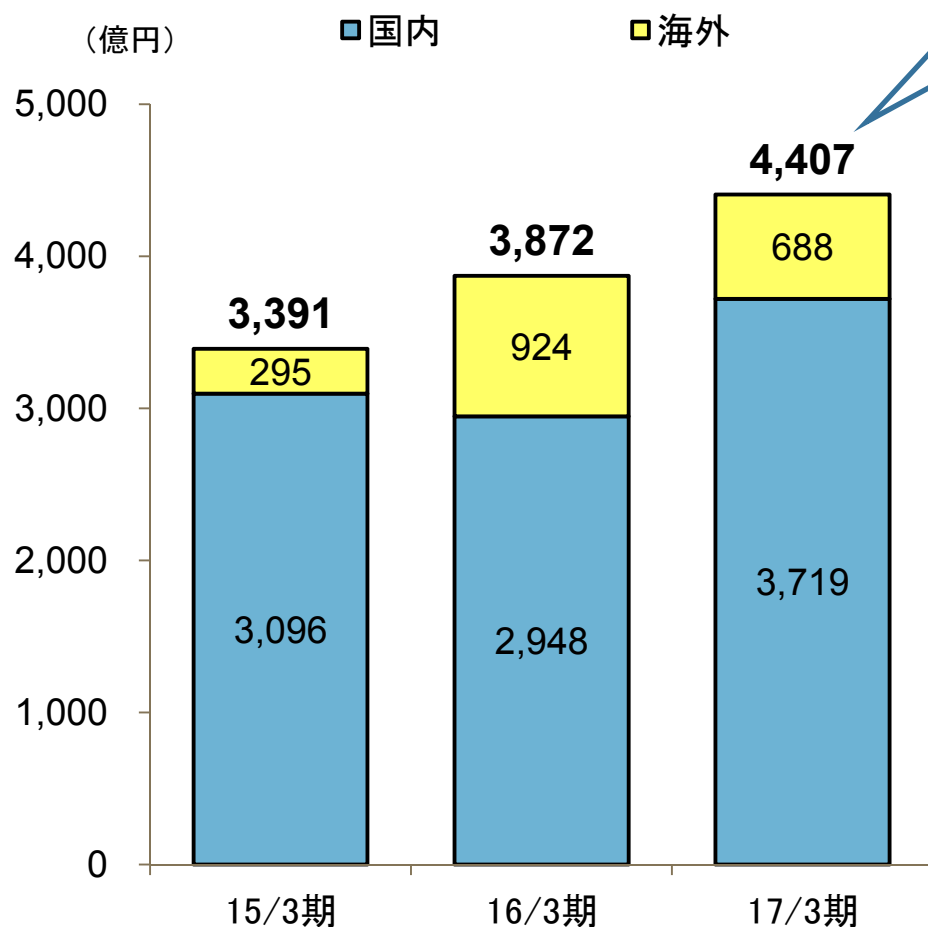
※ 42ページの脚注をご覧ください。

第一生命グループ業績 - 新契約動向



Dai-ichi Life Holdings

新契約年換算保険料



前期比: +13.8%
(為替変動要因を除くと+14.3%)

	16/3期	17/3期	前期比
プロテクティブ ⁽²⁾	356	353	▲1.0% (+2.5%)
TAL ⁽³⁾	494	218	▲55.8% (▲55.6%)
第一生命ベトナム ⁽⁶⁾	72	116	+59.9% (+69.3%)
第一生命	1,406	1,961	+39.5%
うち第三分野	512	602	+17.6%
第一フロンティア生命	1,538	1,741	+13.2%
ネオファースト生命	3	15	+333.0%

※ 42ページの脚注をご覧ください。

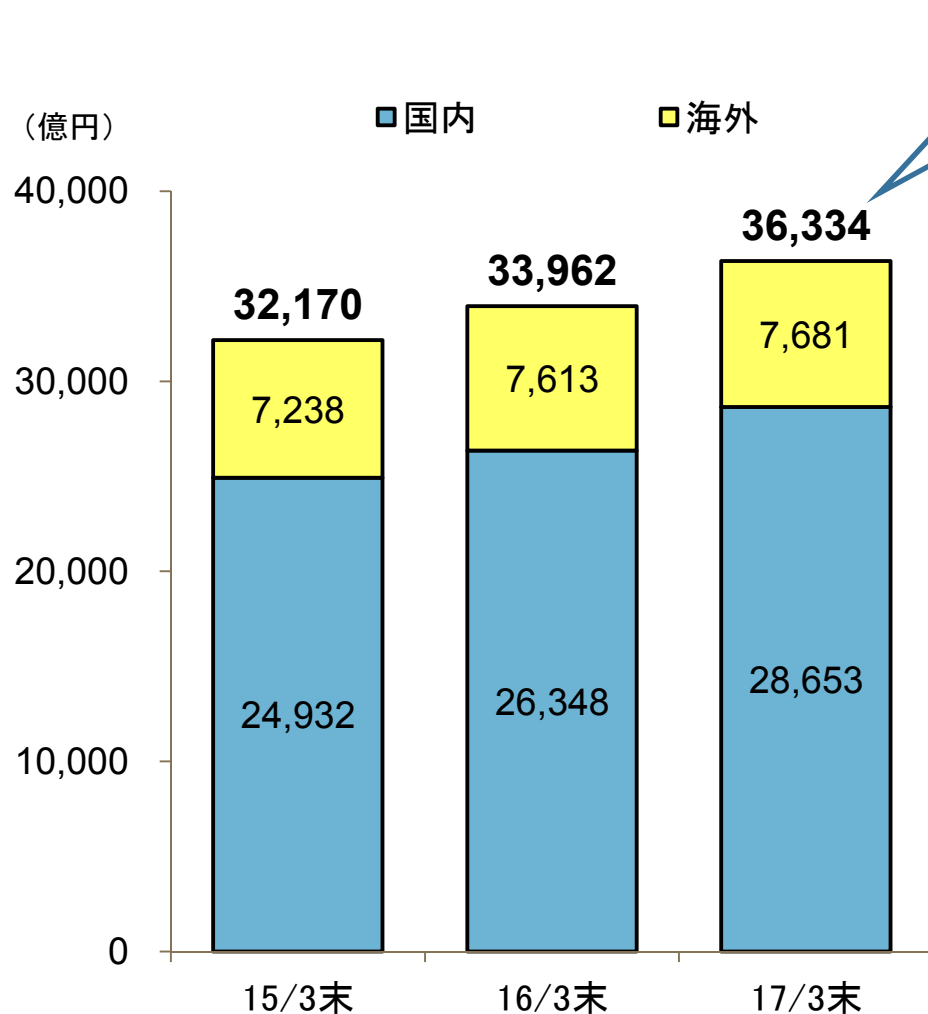
上段は円換算、下段は現地通貨建の変化率

第一生命グループ業績 - 保有契約動向



Dai-ichi Life Holdings

保有契約年換算保険料



前期末比: + 7.0 %
(為替変動要因を除くと + 7.6 %)

	16/3末	17/3末	前期末比
プロテクティブ ⁽²⁾	5,111	5,107	▲0.1% (+3.5%)
TAL ⁽³⁾	2,299	2,290	▲0.4% (+0.1%)
第一生命ベトナム ⁽⁶⁾	203	283	+ 39.6% (+47.8%)
第一生命	20,650	21,472	+ 4.0%
うち第三分野	5,765	6,063	+ 5.2%
第一フロンティア生命	5,658	7,127	+26.0%
ネオファースト生命	39	53	+36.0%

※ 42ページの脚注をご覧ください。

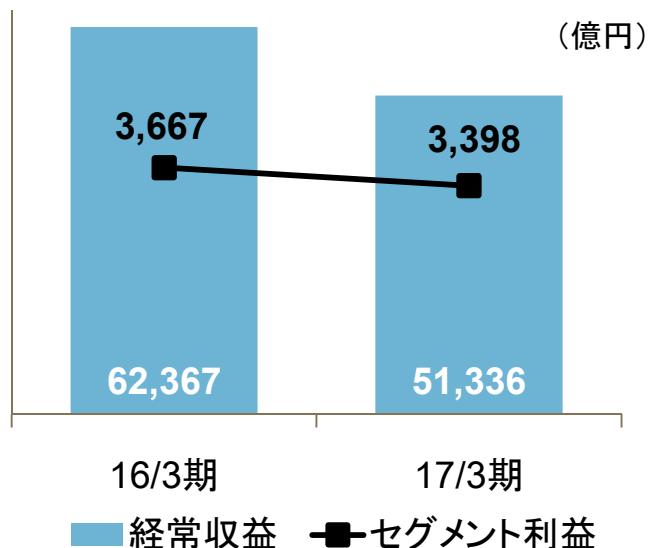
上段は円換算、下段は現地通貨建の変化率

第一生命グループ業績 - セグメント別業績

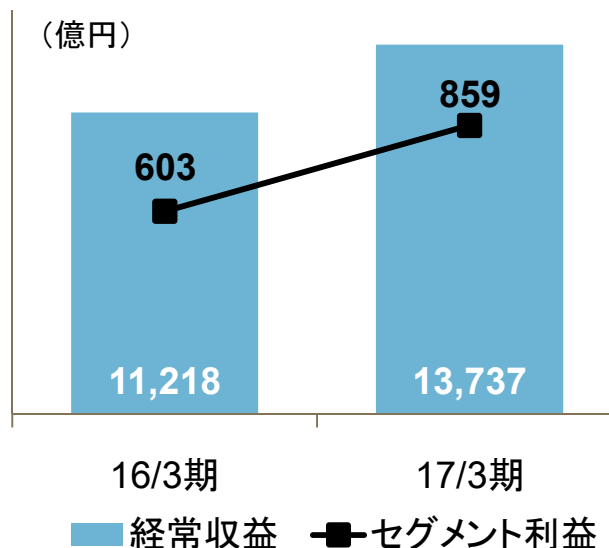


Dai-ichi Life Holdings

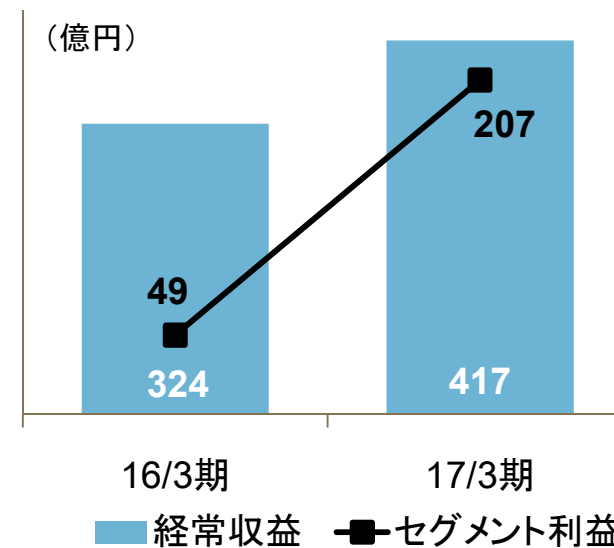
国内生命保険事業



海外保険事業



その他事業



- 経常収益: 円建て一時払貯蓄性商品の販売を戦略的に抑制したため、保険料等収入が減少
- セグメント利益: 円高による順ざやの減少や低金利に伴う退職給付費用負担の増加により、第一生命の基礎利益が減少したことで、減益

- 経常収益: プロテクティブの連結期間が前年同期より1ヶ月長いことや、期初に買収完了した定期保険契約の貢献、海外保険事業全般で資産運用収益が好調だったことで増加
- セグメント利益: 資産運用収支の改善や、TALの生命保険事業の収支改善、プロテクティブの買収事業の貢献等が増益に貢献

- 2016年10月の持株会社体制への移行後、第一生命ホールディングスが子会社から配当金を受け取ったことにより、経常収益、セグメント利益共に増加

第一生命グループ業績 - グループ各社の業績



Dai-ichi Life
Holdings

	【第一生命】 ⁽¹⁾			【第一フロンティア生命】			【米プロテクトティブ】 ⁽²⁾		【豪TAL】 ⁽³⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万米ドル)		(百万豪ドル)			(億円)		
	16/3期	17/3期	前期比	16/3期	17/3期	前期比	16/3期 (2-12月)	17/3期	16/3期	17/3期	前期比	16/3期	17/3期	前期比
経常収益	42,657	39,467	△7%	19,675	11,832	△40%	6,784	8,873	3,231	3,574	+11%	73,339	64,567	△12%
保険料等収入	28,666	25,475	△11%	18,730	9,888	△47%	4,689	5,353	3,020	3,251	+8%	55,860	44,687	△20%
資産運用収益	10,600	10,720	+1%	945	1,941	+105%	1,701	3,099	31	243	+684%	13,448	16,261	+21%
経常費用	39,215	36,649	△7%	19,379	11,195	△42%	6,384	8,279	3,079	3,363	+9%	69,157	60,314	△13%
保険金等支払金	26,813	23,275	△13%	4,957	5,555	+12%	4,020	4,659	1,949	2,218	+14%	38,309	36,183	△6%
責任準備金等繰入額	2,091	2,733	+31%	11,365	4,709	△59%	1,031	2,274	312	292	△7%	14,963	10,167	△32%
資産運用費用	2,739	2,863	+4%	1,971	360	△82%	440	305	72	49	△31%	5,240	3,421	△35%
事業費	4,041	4,220	+4%	972	512	△47%	692	796	636	689	+8%	6,613	6,509	△2%
経常利益	3,442	2,818	△18%	296	637	+115%	399	594	152	211	+38%	4,181	4,253	+2%
特別利益	2	49	+1,634%	--	--	--	--	0	--	--	--	3	174	+5,580%
特別損失	522	439	△16%	29	34	+15%	--	0	0	--	--	552	474	△14%
純利益 ⁽⁵⁾	1,291	1,171	△9%	243	502	+107%	268	393	119	148	+24%	1,785	2,312	+30%

※ 42ページの脚注をご覧ください。

グループ修正利益



Dai-ichi Life
Holdings

		(億円)			
項番		16/3期	17/3期		
	国内生命保険事業				
1	第一生命 ⁽¹⁾	当期利益	1,291	1,171	
2		調整(1) 危険準備金繰入額(法定超過額、税後) ⁽⁷⁾	129	129	危険準備金繰入額(法定超過額)を調整
3		調整(2) 価格変動準備金繰入額(法定超過額、税後) ⁽⁷⁾	—	—	
4		調整(3) 市場価格調整(MVA)関連損益(税後) ⁽⁸⁾	-4	-2	
5		調整額合計	125	127	
6		修正利益 ⁽⁹⁾	1,416	1,299	
7	第一フロンティア生命	当期利益	243	502	
8		調整(1) 危険準備金繰入額(法定超過額、税後) ⁽⁷⁾	—	—	内外金利変動に伴うMVA関連損益を調整
9		調整(2) 価格変動準備金繰入額(法定超過額、税後) ⁽⁷⁾	—	—	
10		調整(3) 市場価格調整(MVA)関連損益(税後) ⁽⁸⁾	75	-270	
11		調整額合計	75	-270	
12		修正利益	318	232	
13	ネオファースト生命	当期利益	-71	-59	
14		修正利益	-71	-59	
15	国内生命保険事業修正利益		1,664	1,471	
	海外保険事業 ⁽⁴⁾				
16	プロテクティブ ⁽²⁾	当期利益	323	457	
17	TAL ⁽³⁾	当期利益	103	127	
18	海外保険事業修正利益		457	615	
19	アセットマネジメント事業	修正利益	59	58	
20	持株会社	修正利益	—	0	
21	連結調整	調整(1) 受け取り配当相殺 ⁽⁹⁾	135	44	上半期における第一生命の配当収入を調整
22		調整(2) のれん償却額 ⁽¹⁰⁾	63	56	
23		調整(3) 持分変動益	—	-124	アセットマネジメントOne再編に伴う持分変動益
24		調整(4) その他	-3	0	
25	(新基準)グループ修正利益(項番25=15+18+19+20-21)		2,046	2,101	
26	(旧基準)連結修正純利益(項番26=1+2+3+7+8+9+14+18+19+20-21-22-23-24)		1,914	2,442	
27	連結当期純利益(項番27=25-5-11-22-23-24)⁽⁶⁾		1,785	2,312	

※ 42ページの脚注をご覧ください。



国内生命保険事業

第一生命⁽¹⁾ 財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書

	現第一生命 (億円)		
	16/3期	17/3期	増減
経常収益	42,657	39,467	△3,190
保険料等収入	28,666	25,475	△3,190
資産運用収益	10,600	10,720	+120
うち利息・配当金等収入	8,022	7,735	△286
うち有価証券売却益	2,119	2,000	△118
うち特別勘定資産運用益	-	547	+547
その他経常収益	3,391	3,271	△120
経常費用	39,215	36,649	△2,565
うち保険金等支払金	26,813	23,275	△3,538
うち責任準備金等繰入額	2,091	2,733	+642
うち資産運用費用	2,739	2,863	+123
うち有価証券売却損	624	911	+287
うち有価証券評価損	8	248	+239
うち金融派生商品費用	541	147	△393
うち為替差損	538	810	+272
うち特別勘定資産運用損	315	-	△315
うち事業費	4,041	4,220	+179
経常利益	3,442	2,818	△624
特別利益	2	49	+46
特別損失	522	439	△83
契約者配当準備金繰入額	975	850	△125
税引前純利益	1,947	1,578	△368
法人税等合計	656	406	△249
純利益	1,291	1,171	△119
危険準備金繰入額(法定超過額、税後)	129	129	-
価格変動準備金繰入額(法定超過額、税後)	-	-	-
市場価格調整(MVA)関連損益(税後)	△4	△2	+1
修正利益	1,416	1,299	△117

貸借対照表

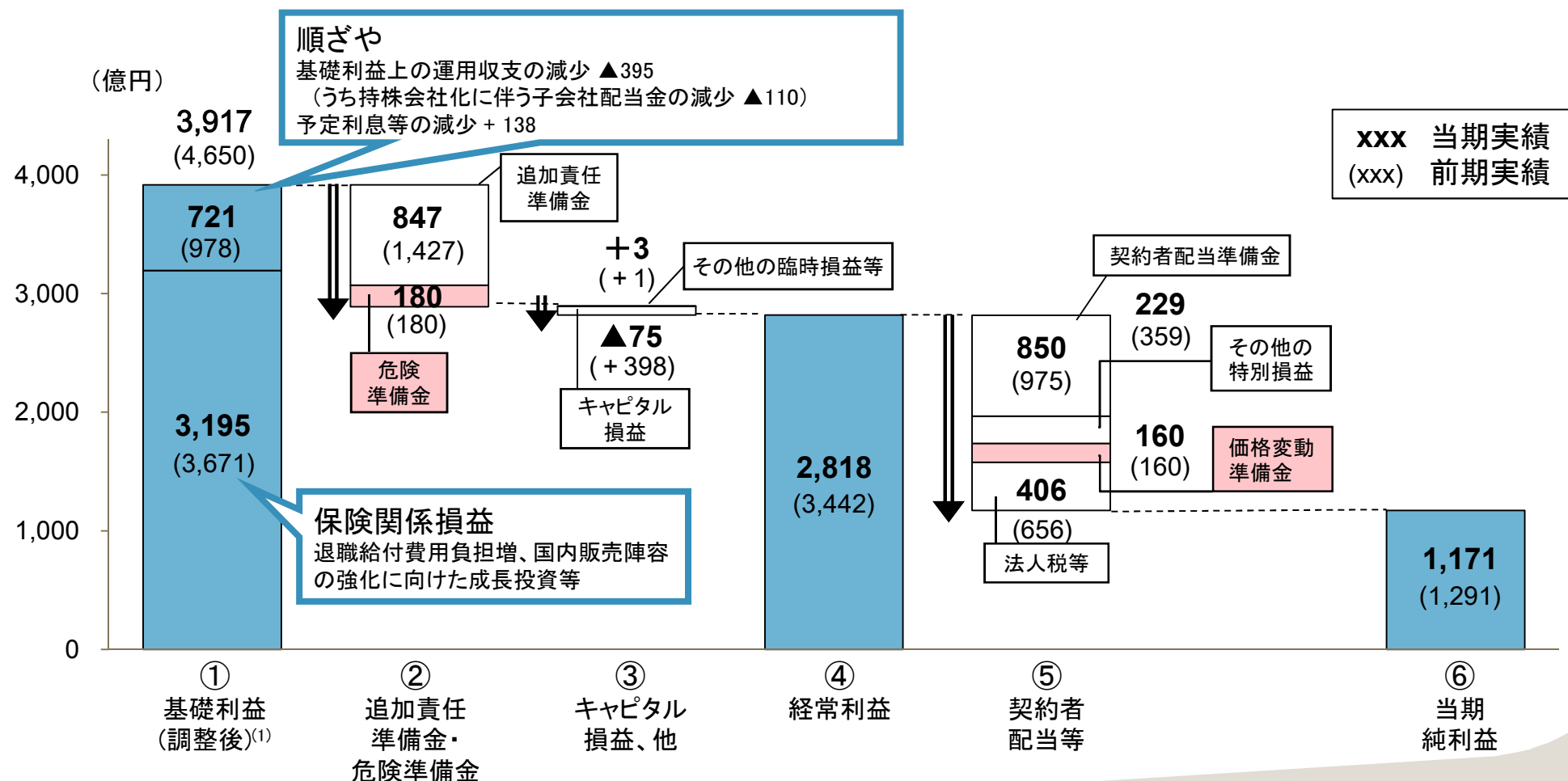
	現第一生命 (億円)		
	16/3末	17/3末	増減
資産の部合計	358,949	356,866	△2,083
うち現預金・コール	6,452	5,369	△1,082
うち買入金銭債権	2,332	1,922	△409
うち有価証券	302,501	304,981	+2,479
うち貸付金	28,260	26,578	△1,681
うち有形固定資産	11,641	11,244	△397
負債の部合計	327,917	332,050	+4,132
うち保険契約準備金	306,352	308,647	+2,295
うち責任準備金	299,842	302,491	+2,649
うち危険準備金	5,760	5,940	+180
うち社債	2,157	4,762	+2,605
うちその他負債	10,950	10,047	△903
うち退職給付引当金	3,779	3,808	+29
うち価格変動準備金	1,484	1,644	+160
うち繰延税金負債	1,386	1,298	△88
純資産の部合計	31,031	24,816	△6,215
うち株主資本合計	11,755	5,612	△6,143
うち評価・換算差額等合計	19,266	19,203	△62
うちその他有価証券評価差額金	19,469	19,632	+163
うち土地再評価差額金	△164	△175	△11

※ 42ページの脚注をご覧ください。



第一生命業績 - 基礎利益～当期純利益の状況

- 低金利に伴う退職給付費用負担増、国内販売陣容の強化に向けた成長投資等により保険関係損益は減少
- 為替・株価等、経済環境の変動の影響で運用収支はインカム・キャピタル共に悪化
- 追加責任準備金繰入額の減少、法人税率引下げに伴う繰延税金資産取崩し効果の反動で相殺



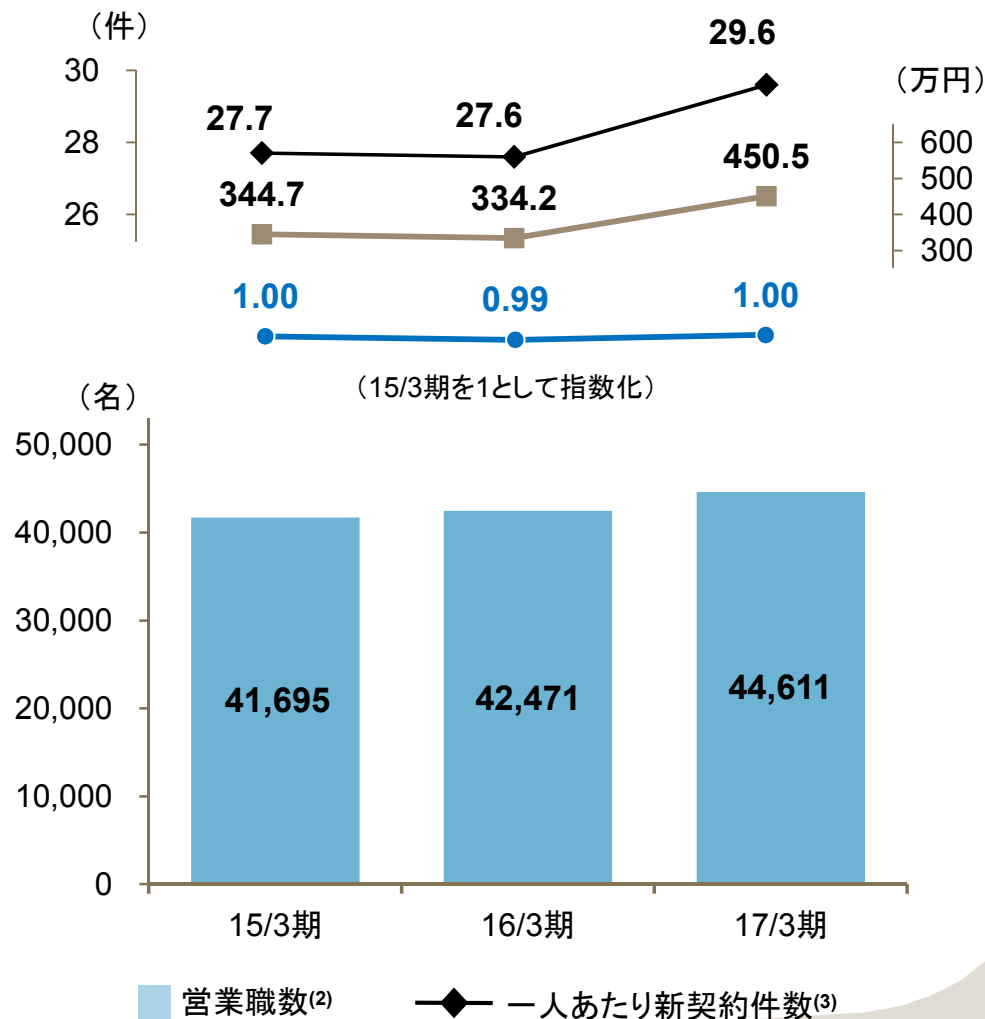
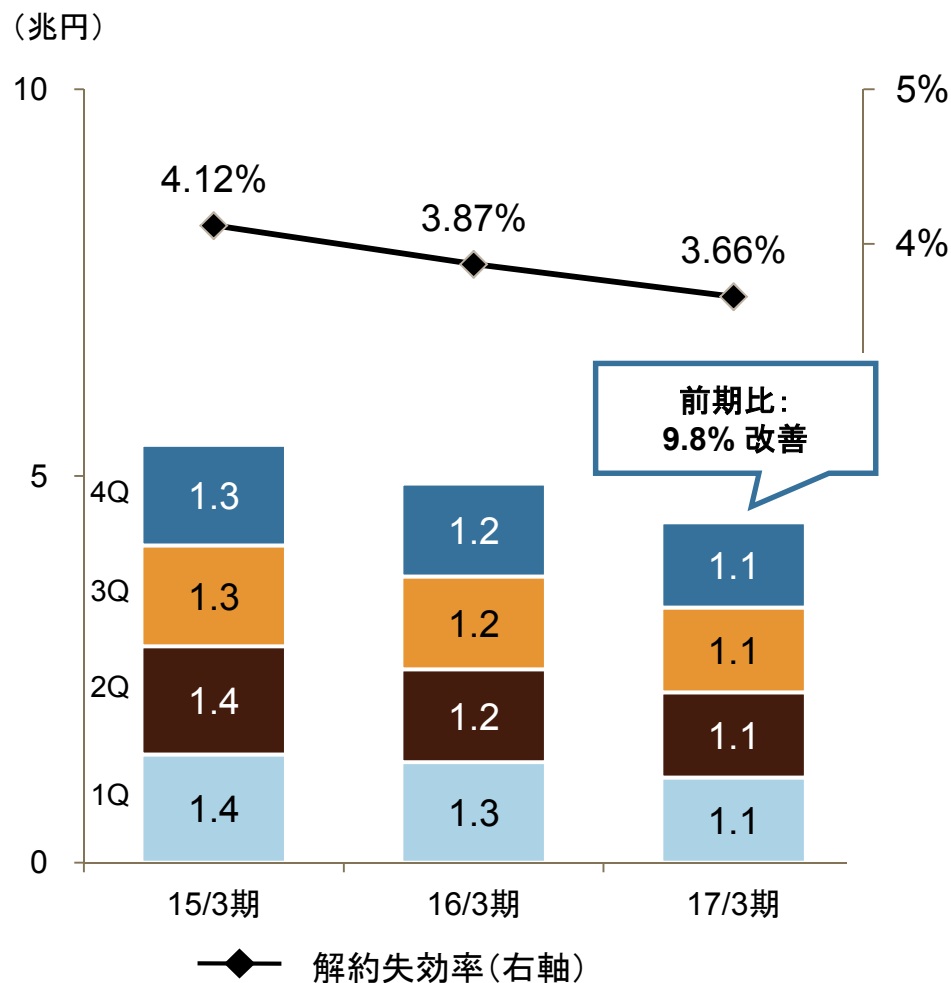
※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。



第一生命業績 - 解約失効高、営業職数および生産性

解約失効高(個人保険・個人年金)

営業職数および生産性⁽²⁾⁽³⁾

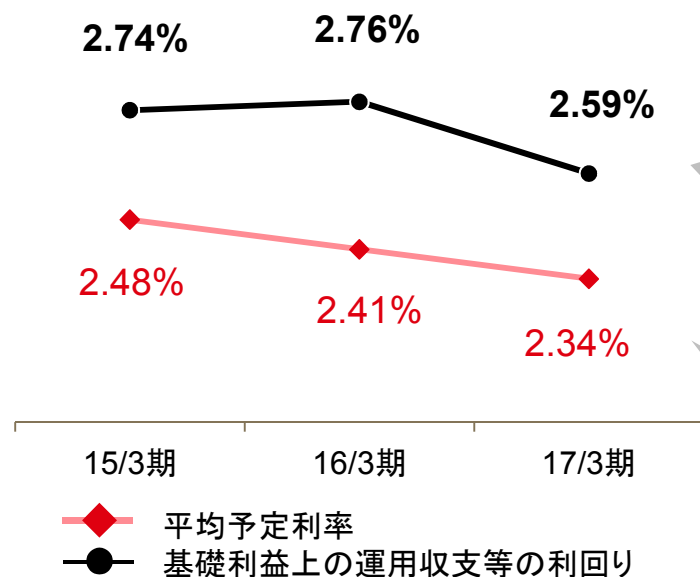


※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。



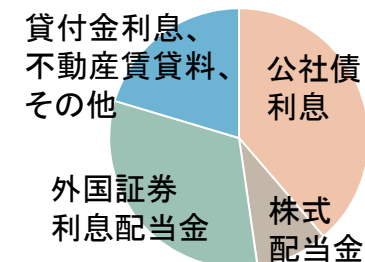
第一生命業績 - 順ざやと追加責任準備金

予定利率と基礎利回り



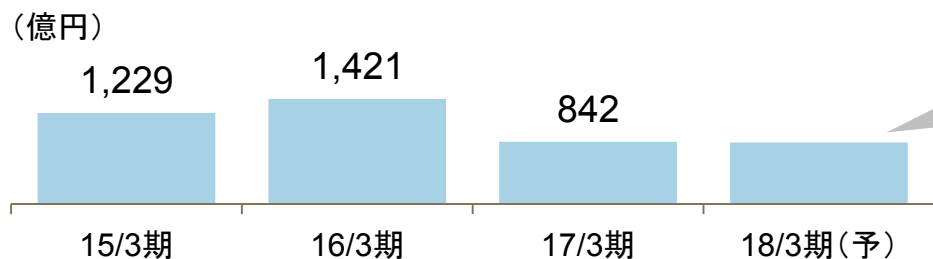
- 超低金利が継続する中にも、ヘッジ外債の積み増し等により利回りを確保し、**順ざやを維持**
- 円建確定利付き資産⁽⁴⁾のデュレーションは約15年

利息及び配当金等収入の内訳(17/3期)



- 追加責任準備金の新規繰入れと、金利動向を踏まえた予定利率の設定により、**平均予定利率は下降トレンドを維持**

追加責任準備金 新規繰入額⁽⁵⁾



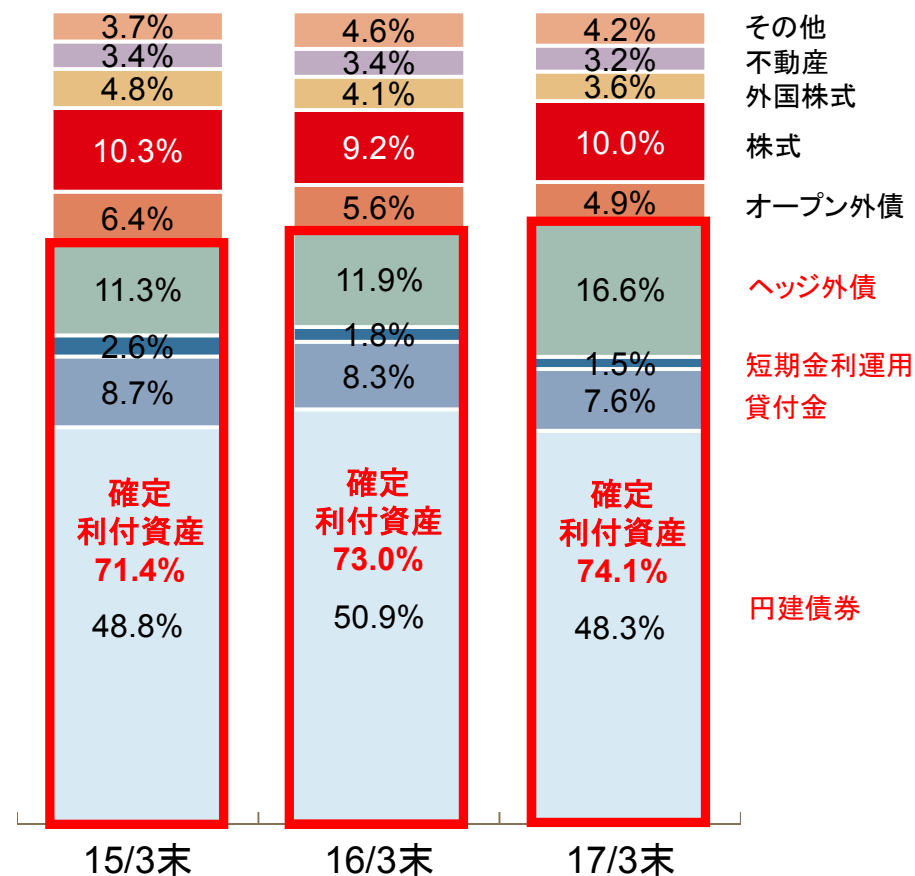
- 追加責任準備金は、現行水準の繰入となる**計画に変更の予定は無い**

※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。

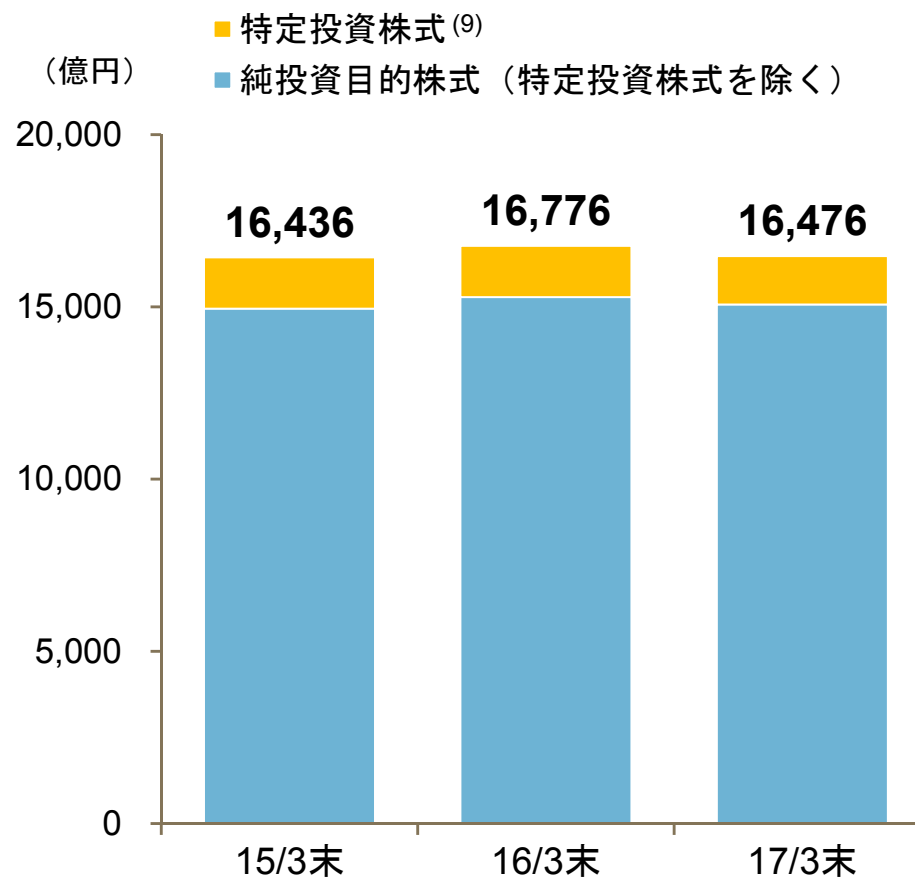


第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成(一般勘定) (6)(7)



国内株式の簿価 (8)

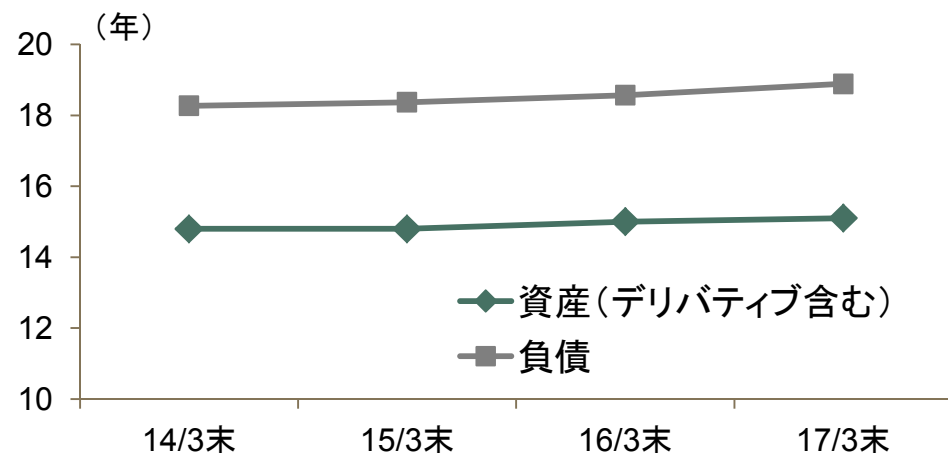


※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。

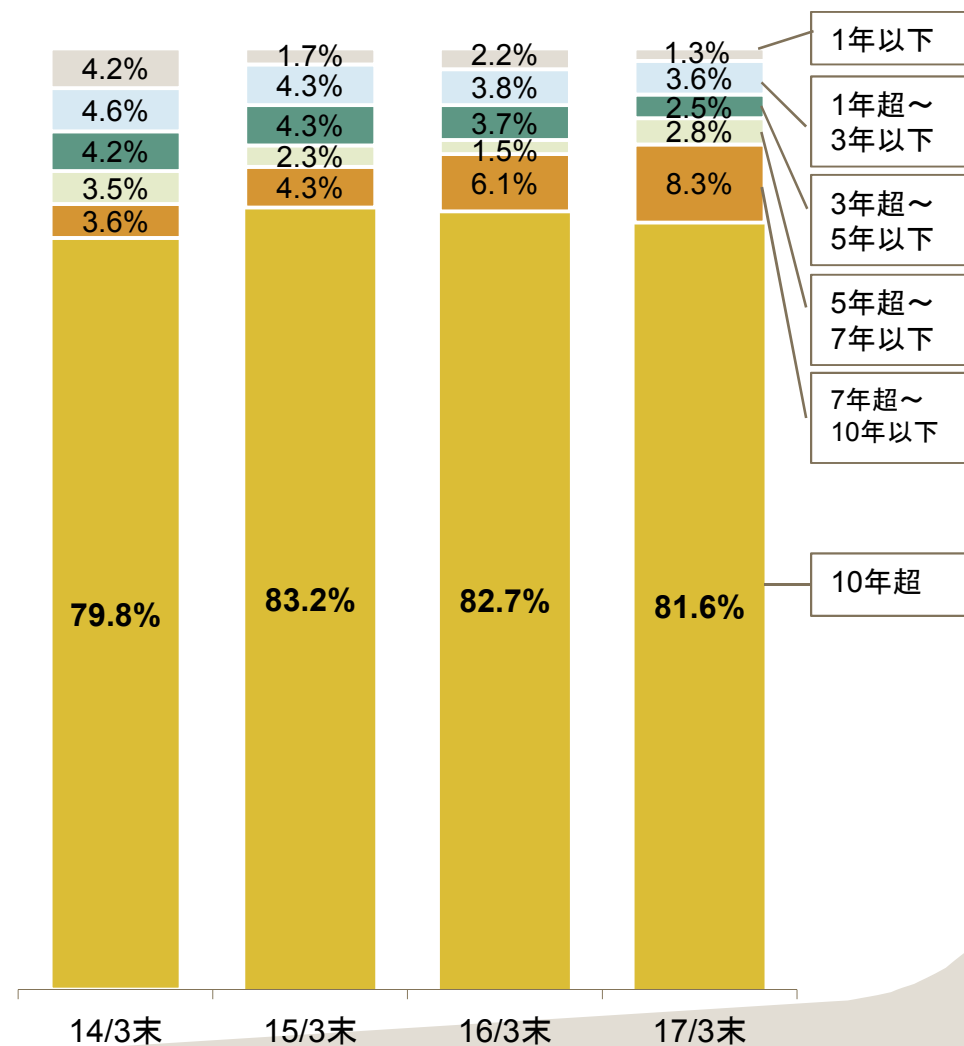


第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (2)

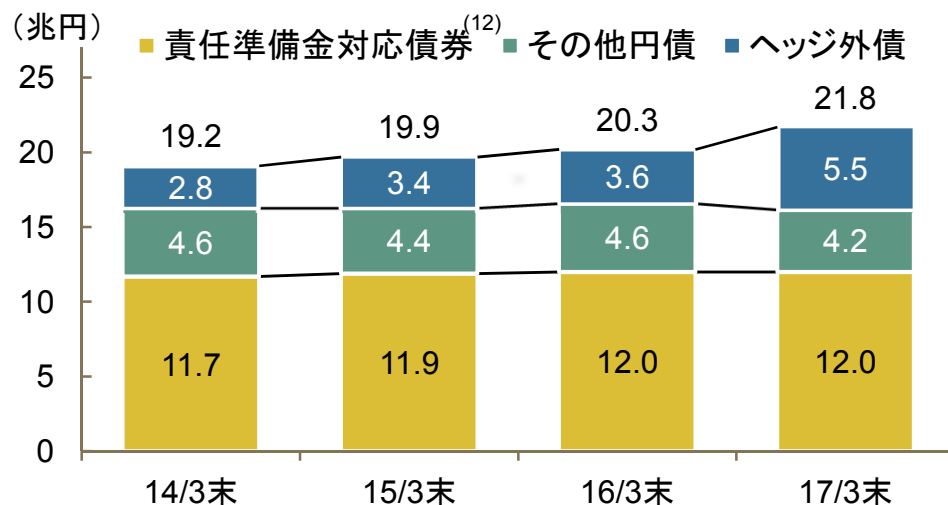
確定利付資産と負債のデュレーション (10)



国内債券の残存期間 (13)



債券の積み増し状況 (11)

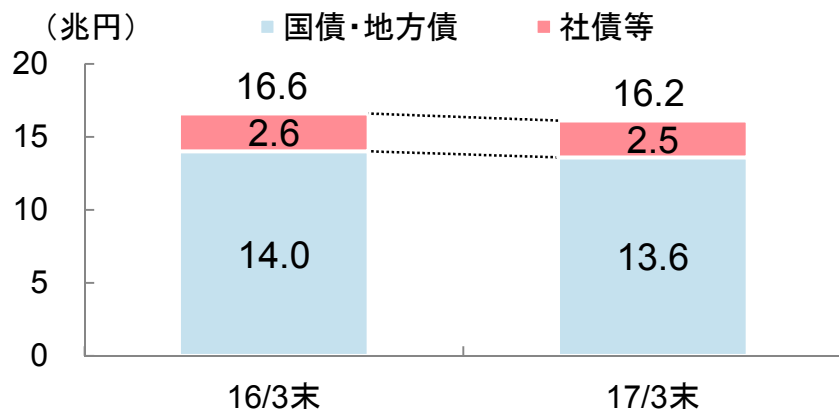


※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。

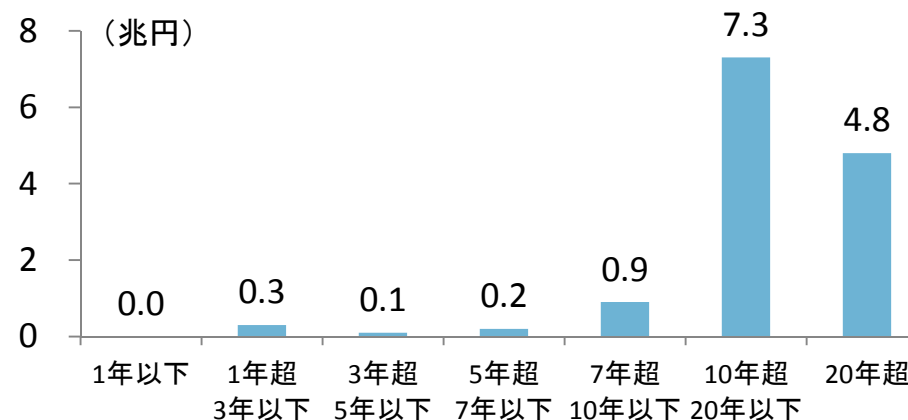


第一生命業績 - 保有債券の状況

円建債券の内訳 (14)

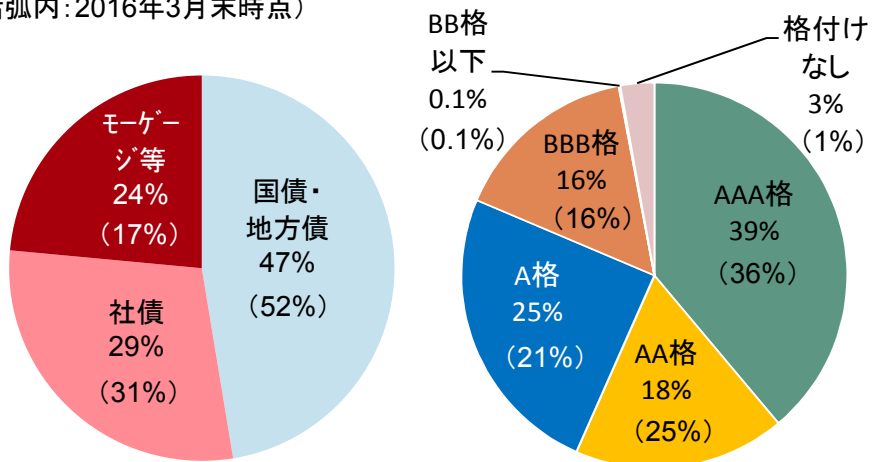


国債の残存期間別残高 (15) (2017年3月末)

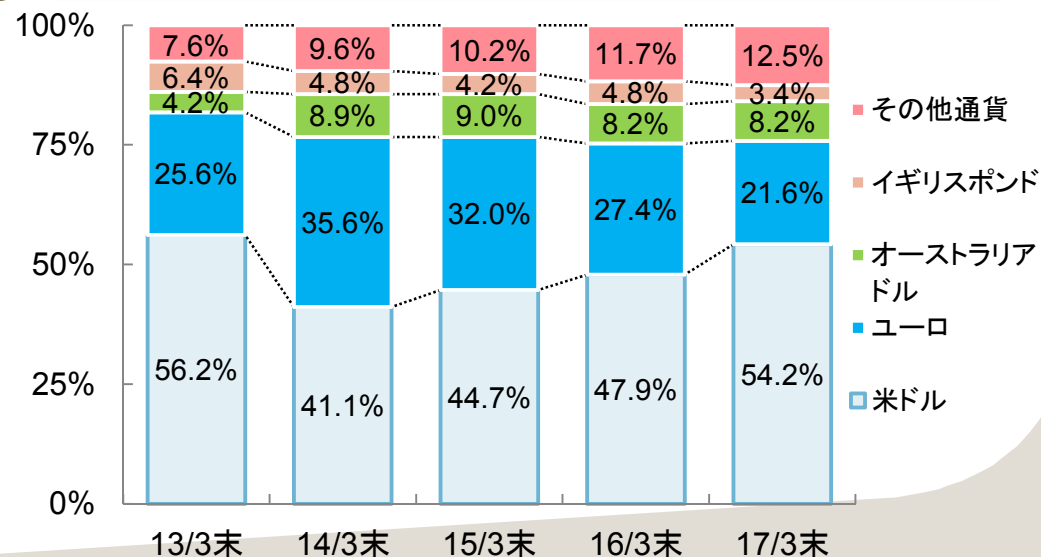


外貨建債券の内訳 (15)(16) (2017年3月末)

(括弧内: 2016年3月末時点)



外貨建債券の通貨別構成 (15)



※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。

第一生命業績 - 健全性指標

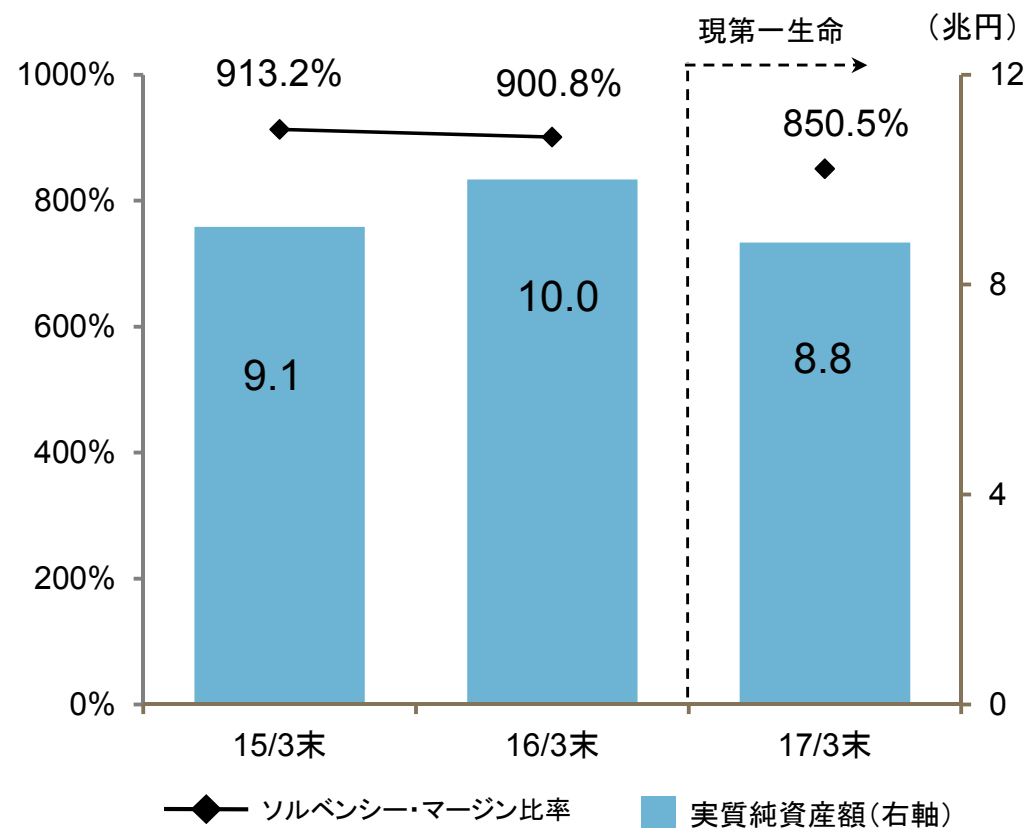


Dai-ichi Life Holdings

含み損益(一般勘定)

	現第一生命		
	16/3末	17/3末	(億円)
			増減
有価証券	62,120	54,910	△7,209
国内債券	40,229	32,439	△7,790
国内株式	13,128	16,878	+3,750
外国債券	6,787	3,947	△2,839
外国株式	1,720	1,252	△468
不動産	1,303	1,667	+363
その他共計	63,346	56,370	△6,975

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



＜参考＞ 第一生命ホールディングスの
連結ソルベンシー・マージン比率：
2017年3月末 749.2%

※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。

第一生命業績 - 金融市場への感応度(2017年3月末)



Dai-ichi Life Holdings

	感応度 (17)	含み損益ゼロ水準 (18)
国内株式	<p>日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2016年3月末:1,700億円)</p>	<p>日経平均株価 ¥9,400 (2016年3月末:¥9,400)</p>
国内債券	<p>10年国債利回り 10bpの変動で 2,600億円の増減※ (2016年3月末:2,900億円)</p> <p>※その他有価証券区分:300億円の増減 (2016年3月末:400億円)</p>	<p>10年国債利回り 1.3%※ (2016年3月末:1.3%)</p> <p>※その他有価証券区分:1.4% (2016年3月末:1.4%)</p>
外国証券	<p>ドル/円 1円の変動で 210億円の増減 (2016年3月末:290億円)</p>	<p>ドル/円 \$1 = ¥105 (2016年3月末:¥103)</p>

※ 第一生命業績に関する脚注は21ページをご覧ください。



- P13 (1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除いています。
- P14 (2) 営業職については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いています。
- (3) 各期間における新契約件数、年換算保険料及び営業収益価値を分子、営業職数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。営業収益価値とは、営業部門の獲得収益を表す当社独自の指標であり、経済環境の変動要因を除外した、事業費等コスト控除前の新契約価値に相当します。
- P15 (4) 一般勘定資産のうち主に個人保険・個人年金に関わる経理区分の保険負債と円建確定利付資産(デリバティブ含む)のデュレーションを記載しています。
- (5) 1996年3月以前加入の終身保険のうち、払込満了後契約を対象とした金額を記載しています。
- P16 (6) 2016年10月1日付の持株会社体制移行に伴い、旧第一生命の傘下にあった子会社・関連会社株式の一部は第一生命ホールディングスに残置しています。グラフは現第一生命の資産構成を示しています。なお、15/3末及び16/3末については株式及び外国株式において持株移行の影響を調整しています。
- (7) 貸借対照表価額ベースの残高をもとに構成比を計算しています。
- (8) 国内株式の簿価残高は、国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)を対象としています。
- (9) 国内株式の簿価残高に含まれる「特定投資株式」とは、純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)を示しています。
- P17 (10) 一般勘定資産のうち主に個人保険・個人年金に関わる経理区分の保険負債と円建確定利付資産(デリバティブ含む)のデュレーションを記載しています。
- (11) 債券の積み増し状況は、一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象としています。残高は簿価ベースで記載しています。
- (12) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められています。
- (13) 国内債券の残存期間は、一般勘定資産のうち国内債券を対象としています。残高は貸借対照表価額ベースで記載しています。
- P18 (14) 円建債券の内訳は、簿価ベースの残高を記載しています。
- (15) 貸借対照表価額ベースで記載しています。
- (16) 外貨建債券の内訳で示している格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用しています。モーゲージ等を除いています。
- P20 (17) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度を記載しています。
- (18) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準を記載しています。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準を記載しています。

第一フロンティア生命財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書

(億円)

	16/3期	17/3期	増減
経常収益	19,675	11,832	△7,843
うち保険料等収入	18,730	9,888	△8,841
うち資産運用収益	945	1,941	+996
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	23	-	△23
経常費用	19,379	11,195	△8,184
うち保険金等支払金	4,957	5,555	+598
うち責任準備金等繰入額	11,365	4,709	△6,655
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(B)	315	29	△286
うち危険準備金繰入額(C)	△56	3	+59
うち資産運用費用	1,971	360	△1,610
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(D)	-	307	+307
うち為替差損	1,265	-	△1,265
うち事業費	972	512	△460
経常利益	296	637	+340
うち市場価格調整(MVA)に係る損益(E) ⁽¹¹⁾	△84	323	+407
特別損益	△29	△34	△4
税引前純利益	266	602	+336
法人税等合計	23	100	+76
純利益	243	502	+259
修正利益:純利益 - (E)(税後)	318	232	△86
基礎的収益力:純利益 - (A)+(B)+(C)+(D)-(E)	563	518	△44

貸借対照表

(億円)

	16/3末	17/3末	増減
資産の部合計	61,322	67,424	+6,101
うち現預金	1,184	1,098	△85
うち有価証券	58,365	62,149	+3,784
負債の部合計	60,463	66,321	+5,857
うち保険契約準備金	59,481	64,190	+4,709
うち責任準備金	59,411	64,098	+4,687
うち危険準備金	1,146	1,149	+3
純資産の部合計	859	1,103	+243
うち株主資本合計	427	930	+502
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,422	△919	+502

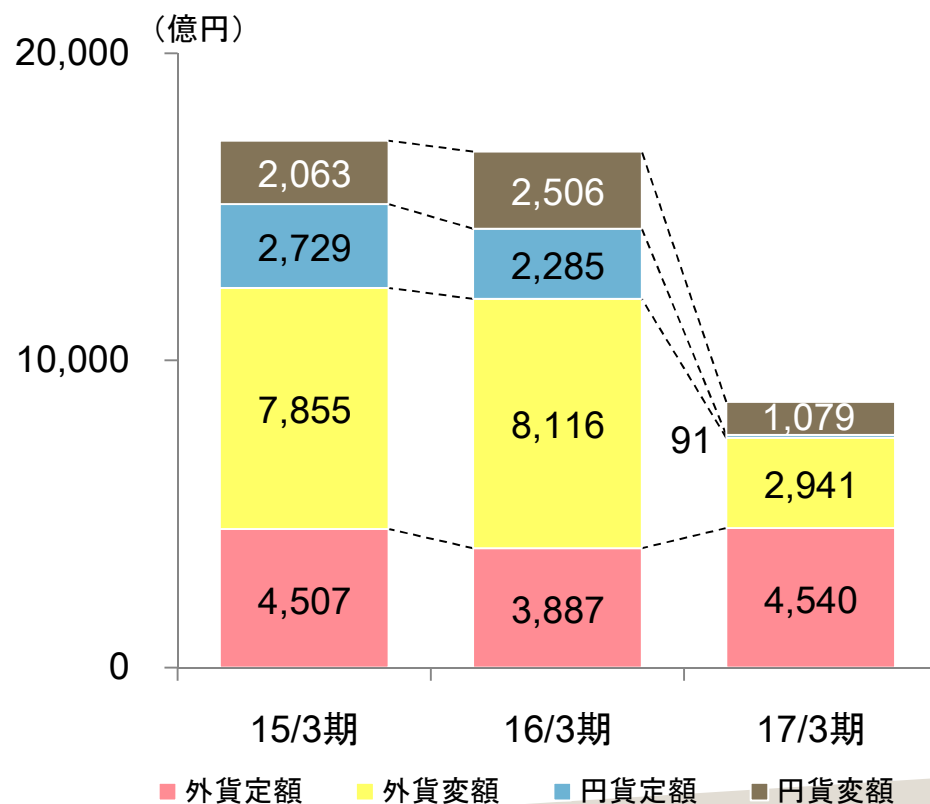
※ 42ページの脚注をご覧ください。



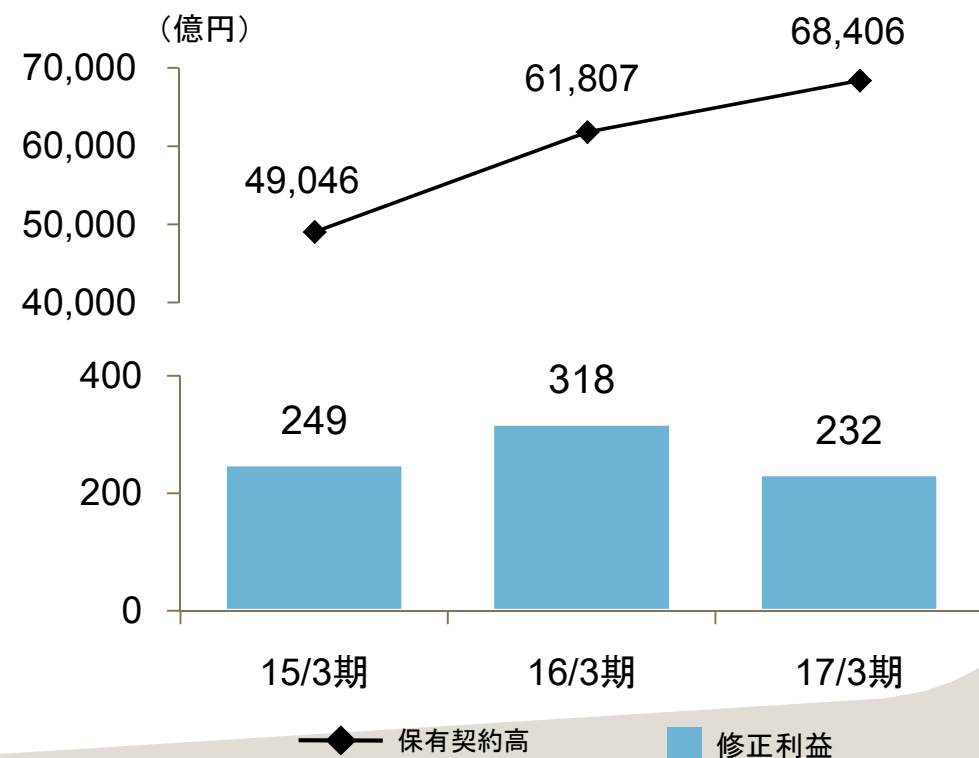
業績ハイライト

- 外貨定額保険は堅調な販売。経済環境を背景に円貨定額商品の販売を抑制したほか、窓販市場におけるリスク回避志向の高まり等を背景に変額商品の販売が減少
- 市場価格調整損益を調整した修正利益は、黒字定着を背景とする法人税負担の高まりにより減少

商品別保険料収入



保有契約高・修正利益





海外生命保険事業

米プロテクティブ財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書⁽²⁾

(百万米ドル)

	16/3期 (2-12月)	17/3期 (1-12月)
経常収益	6,784	8,873
保険料等収入	4,689	5,353
資産運用収益	1,701	3,099
その他経常収益	393	420
経常費用	6,384	8,279
保険金等支払金	4,020	4,659
責任準備金等繰入額	1,031	2,274
資産運用費用	440	305
事業費	692	796
その他経常費用	200	244
経常利益	399	594
法人税等合計	131	200
純利益	268	393

貸借対照表⁽²⁾

(百万米ドル)

	15/12末	16/12末	増減
資産の部合計	68,493	75,005	+6,511
うち現預金	397	350	△47
うち有価証券	50,843	56,237	+5,393
うち貸付金	7,360	7,784	+424
うち有形固定資産	113	114	+0
うち無形固定資産	2,663	2,937	+273
うちのれん	732	793	+61
うちその他の無形固定資産	1,915	2,122	+206
うち再保険貸	165	161	△4
負債の部合計	63,912	69,533	+5,621
うち保険契約準備金	57,893	60,702	+2,808
うち再保険借	244	247	+3
うち社債	2,238	4,230	+1,992
うちその他負債	2,409	2,641	+232
純資産の部合計	4,581	5,471	+890
株主資本合計	5,822	6,126	+303
その他の包括利益累計額合計	△1,241	△654	+586

※ 42ページの脚注をご覧ください。

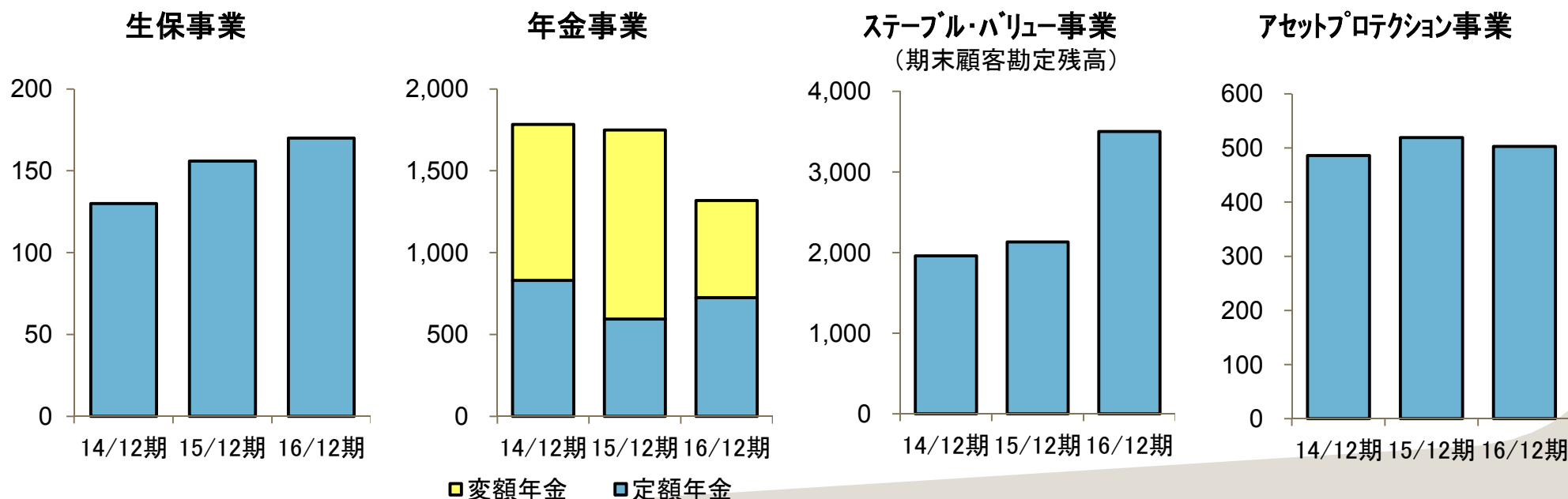


米プロテクティブ業績(1)

業績ハイライト

- 危険差益の悪化や責任準備金の見直しを行うなどのマイナス要因を運用収支の改善で相殺し、通期予算を上回る実績を達成
- ジェンワースの定期保険ブロックの買収効果が通期で貢献を開始。ユナイテッド・ステーツ・ワランティ・コーポレーションの買収を完了
- 年金事業を除き、営業業績は想定線で推移
- 生保事業で提携販売パートナーの拡充を達成

営業業績(百万米ドル)⁽²⁾



※ 42ページの脚注をご覧ください。

米プロテクティブ業績(2)



Dai-ichi Life
Holdings

主要業績 (2)

(百万米ドル)

	16/3期 (15/2-12月)	17/3期 (16/1-12月)	
	実績	予算	実績
生保事業	57.4	87.0	39.7
買収事業	194.6	233.6	260.5
年金事業	180.2	222.1	213.2
ステーブルバリュー事業	56.5	28.5	61.2
アセットプロテクション事業	20.6	25.0	16.4
コーポレート	△ 25.0	△ 67.0	△ 87.9
税引前営業利益 ⁽¹²⁾	484.4	530.0	503.3
キャピタル損益(運用収支)	△ 185.1	△ 42.0	48.5
キャピタル損益(金融派生商品損益)	100.5	n.a.	42.0
法人税等	△ 131.5	△ 180.0	△ 200.9
当期利益	268.2	308.0	393.0

セグメント別 予算・実績比較

【生保事業】

- ・ 予算対比で危険差益が悪化したこと、責任準備金の見直しを行ったことにより予算未達

【買収事業】

- ・ 予算対比で危険差益が悪化したものの、運用収支や事業費改善進み、予算超過

【年金事業】

- ・ 予算対比で危険差益は良好であったものの、変額年金に係るフィー収入が悪化したことで予算未達

【ステーブルバリュー事業】

- ・ 予算対比で良好な利ざやと受託残高を確保したことで大幅に予算超過

【アセットプロテクション事業】

- ・ 一部の商品において、予算対比で支払が増加したことや、買収関連費用により予算未達

豪TAL財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (3)

(百万豪ドル)

	16/3期	17/3期	増減
経常収益	3,231	3,574	+342
保険料等収入	3,020	3,251	+230
資産運用収益	31	243	+212
その他経常収益	179	78	△100
経常費用	3,079	3,363	+284
保険金等支払金	1,949	2,218	+269
責任準備金等繰入額	312	292	△20
資産運用費用	72	49	△22
事業費	636	689	+52
その他経常費用	108	113	+4
経常利益	152	211	+58
法人税等合計	32	62	+29
純利益	119	148	+28
基礎的収益力 (Underlying profit)	168	180	+11

貸借対照表 (3)

(百万豪ドル)

	16/3末	17/3末	増減
資産の部合計	7,043	7,178	+134
現預金	1,358	1,559	+200
有価証券	2,859	2,830	△28
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,207	1,178	△28
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	420	392	△28
再保険貸	148	131	△17
その他資産	1,470	1,478	+8
負債の部合計	4,890	4,887	△3
保険契約準備金	3,491	3,525	+34
再保険借	332	290	△41
その他負債	978	734	△243
繰延税金負債	89	95	+6
純資産の部合計	2,152	2,291	+138
株主資本合計	2,152	2,291	+138
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	522	660	+138

豪TAL業績 (3)



Dai-ichi Life
Holdings

業績ハイライト

- 個人保険で順調に新契約を獲得し、保有契約年換算保険料は微増
- 個人保険における死亡保障商品の収支が第4四半期に大きく改善したこと等により、基礎的収益力は、前年比7%増
- 資産運用収支の改善により当期純利益は、前期比24%増

(百万豪ドル)

	16/3期	17/3期	前期比
純利益(A)	119	148	+24%
修正額(B)	48	31	
うち負債割引率の変化	△ 7	1	
うち償却負担	20	20	
その他	36	10	
基礎的収益力=(A)+(B) (Underlying profit)	168	180	+7%

新契約年換算保険料

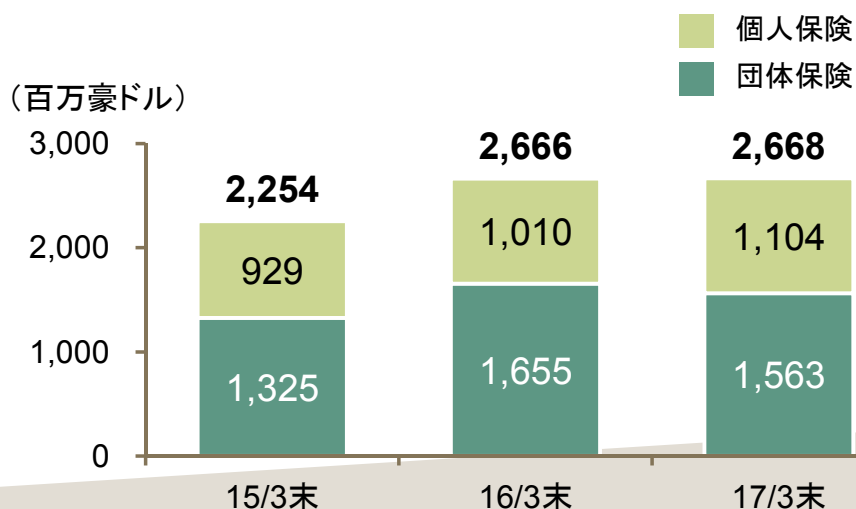
(百万豪ドル)

	15/3期	16/3期	17/3期	増減	
個人保険	新契約	136	144	148	+4
	既契約増減	79	87	100	+12
	小計	216	231	248	+16
団体保険	新契約	3	332	5	△ 326
	既契約増減	42	9	0	△ 9
	小計	46	341	6	△ 335
合計	262	573	254	△ 318	

※既契約増減は契約更新や料率改訂等に伴う既契約の年換算保険料の増減を示す

保有契約年換算保険料

(百万豪ドル)



※ 42ページの脚注をご覧ください。



業績ガイダンス



第一生命グループ業績予想 - 2018年3月期業績予想

- 18/3期は減収・減益を予想。第一生命は責任準備金積立負担増をキャピタル損益改善で相殺。第一フロンティア生命、海外生命保険事業は前期からの反動減
- 総還元性向40%を目指し、配当予想は45円に引き上げ

(億円)

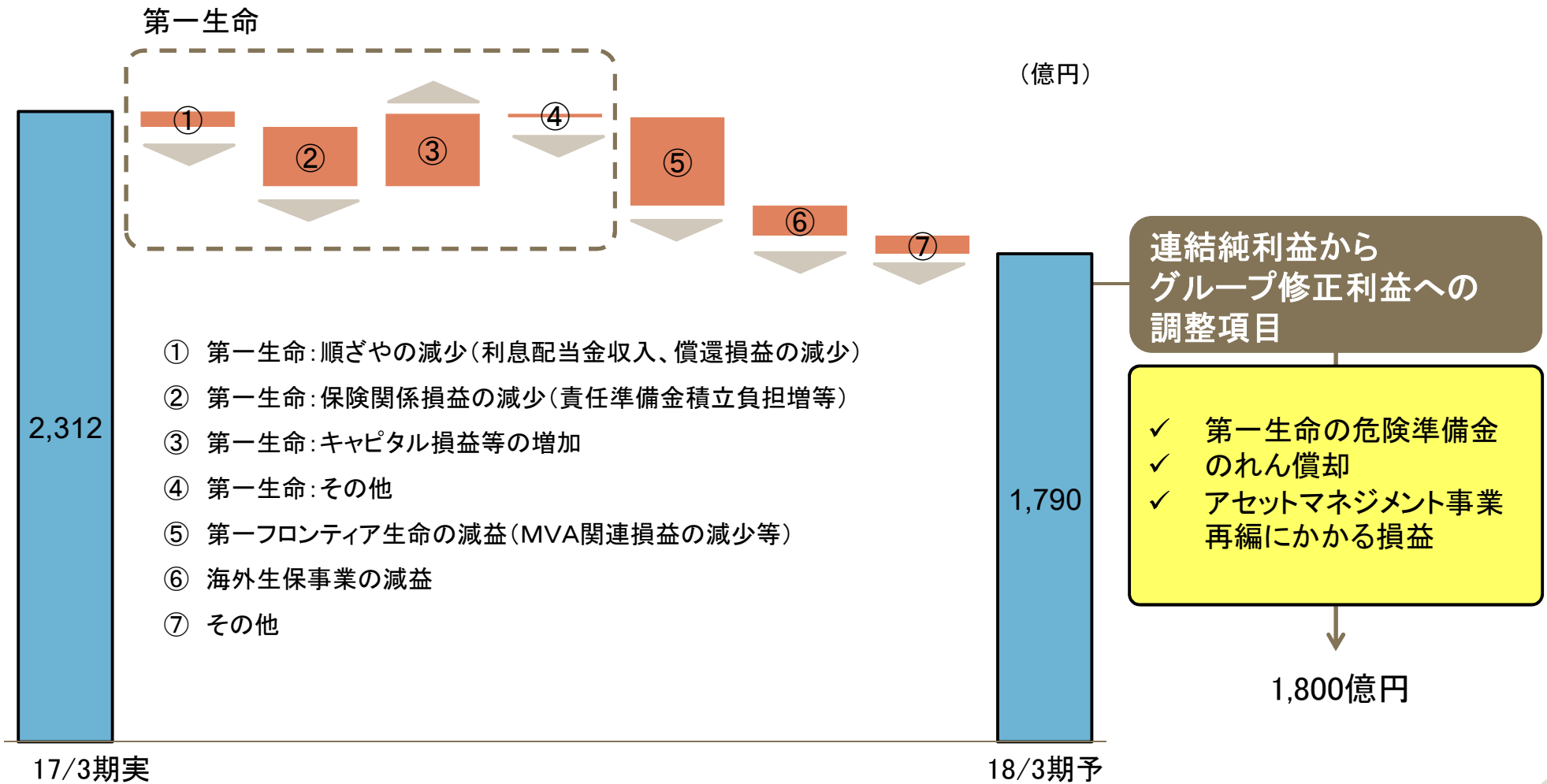
	17/3期	18/3期(予)	増減
連結経常収益	64,567	60,040	△ 4,527
第一生命	39,467	36,630	△ 2,837
第一フロンティア生命	11,832	10,120	△ 1,712
プロテクティブ (百万米ドル)	8,873	8,710	△ 163
TAL (百万豪ドル)	3,574	3,760	+ 185
連結経常利益	4,253	3,630	△ 623
第一生命	2,818	2,720	△ 98
第一フロンティア生命	637	290	△ 347
プロテクティブ (百万米ドル)	594	460	△ 134
TAL (百万豪ドル)	211	180	△ 31
連結純利益⁽⁵⁾	2,312	1,790	△ 522
第一生命	1,171	1,110	△ 61
第一フロンティア生命	502	170	△ 332
プロテクティブ (百万米ドル)	393	310	△ 83
TAL (百万豪ドル)	148	130	△ 18
1株当たり配当金	43円	45円	+2円

(参考:基礎利益)

第一生命グループ	5,584	4,800程度	△ 784
第一生命	3,921	3,400程度	△ 521



連結純利益⁽⁵⁾の増減要因分析



※ 42ページの脚注をご覧ください。



グループEEV



■ 2017年3月末のグループEEVは、新契約の獲得に加え、内外株価・金利上昇により、前期末比で増加。

第一生命グループ(億円)

	16/3末	17/3末	増減
グループEEV	46,461	54,954	+8,493
対象事業 (covered business) のEEV ⁽¹⁾	46,461	56,901	+10,439
修正純資産	62,873	60,735	△2,137
保有契約価値	△ 16,412	△ 3,834	+12,577
対象事業以外の純資産等に係る調整 ⁽²⁾	-	△ 1,946	△1,946

2016年10月1日付けの持株会社体制移行に伴い、グループEEVの表示を変更(グループEEVの金額水準には影響なし)

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	2,161	1,455	△ 705

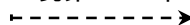
- (1) 対象事業 (covered business) とは、EEV原則で定められているEV手法を適用した範囲のことで、EEV原則では、対象事業のEEVを開示することを求めています。第一生命グループでは、従前は、第一生命グループが行うすべての事業を対象事業としていましたが、2016年10月1日付けの持株会社体制移行後は、生命保険事業を行う子会社(第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクティブ、TAL、第一生命ベトナムおよびこれらの子会社)を対象事業としました。
- (2) 「対象事業以外の純資産等に係る調整」には、2017年3月末における第一生命ホールディングスの単体貸借対照表の純資産の部(12,248億円)、第一生命ホールディングスの生命保険事業子会社6社に対する出資に係る調整(▲14,740億円)、第一生命ホールディングスが保有する資産・負債を時価評価する調整が含まれます。

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (2)



グループ各社のEEV(億円)

現第一生命



修正純資産は、持株会社体制移行に伴う株主資本変動により減少。

	16/3末	17/3末	増減
第一生命	44,414	44,276	△137
修正純資産	64,833	53,519	△11,314
保有契約価値	△20,419	△9,242	+11,176

	16/3末	17/3末	増減
第一フロンティア生命	3,032	3,537	+505
修正純資産	1,838	1,566	△272
保有契約価値	1,194	1,971	+777

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	1,346	1,110	△236

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	532	175	△357

	16/3末	17/3末	増減
ネオファースト生命	414	380	△33
修正純資産	277	219	△58
保有契約価値	136	161	+25

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	—	△39	—
(参考) 均衡事業費ベース新契約価値	—	24	—

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (3)



Dai-ichi Life
Holdings

グループ各社のEEV(億円)

	15/12末	16/12末	増減
プロテクティブ	5,512	5,898	+385
修正純資産	4,149	4,214	+65
保有契約価値	1,363	1,683	+319

	15/12期	16/12期	増減
新契約価値	56	38	△17

	16/3末	17/3末	増減
TAL	2,673	2,689	+16
修正純資産	1,359	1,284	△75
保有契約価値	1,313	1,404	+91

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	225	169	△56

現地通貨建(プロテクティブ:百万米ドル、TAL:百万豪ドル)

	15/12末	16/12末	増減
プロテクティブ	4,570	5,063	+492
修正純資産	3,440	3,618	+178
保有契約価値	1,130	1,444	+314

	15/12期	16/12期	増減
新契約価値	46	33	△13

	16/3末	17/3末	増減
TAL	3,099	3,132	+33
修正純資産	1,576	1,496	△80
保有契約価値	1,522	1,636	+113

	16/3期	17/3期	増減
新契約価値	262	197	△64



EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (4) 資産・負債の対応を考慮したEEVの再分類

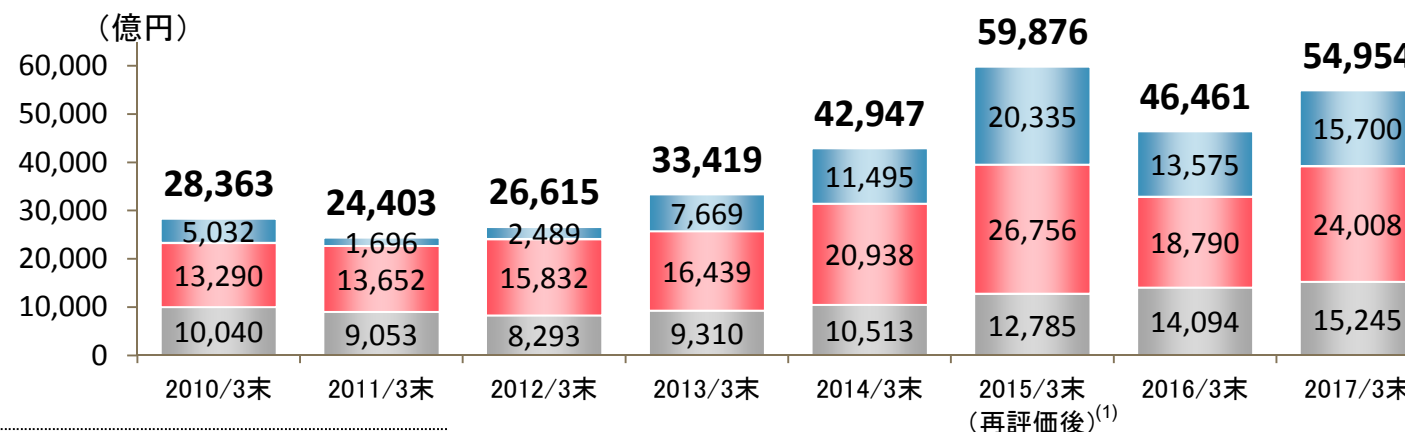
資産・負債の対応を考慮した再分類

第一生命グループのEEV(億円)

	16/3末	17/3末	増減
グループEEV	46,461	54,954	+8,493
対象事業 (covered business) のEEV	46,461	56,901	+10,439
修正純資産	62,873	60,735	△2,137
保有契約価値	△ 16,412	△ 3,834	+12,577
対象事業以外の純資産等に係る調整	-	△ 1,946	△ 1,946

	16/3末	17/3末
グループEEV	46,461	54,954
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	13,575	15,700
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	18,790	24,008
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	14,094	15,245

第一生命グループのEEV推移 【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含み損益等⁽²⁾

保有契約価値+確定利付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

- (1) 2015/3末のEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
- (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産(株式、外貨建債券(ヘッジ外債を除く)、不動産等)の含み損益等の額を計上しています。
- (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
- (4) 対象事業のEEVの修正純資産に対象事業以外の純資産等に係る調整を反映し、含み損益等を除いた額を計上しています。



参考データ

第一生命グループ業績 - グループ各社の貸借対照表



Dai-ichi Life
Holdings

	【第一生命】 (億円)	【第一フロンティア生命】 (億円)	【米プロテktiv [®] 】 ⁽²⁾⁽⁴⁾ (百万米ドル)	【豪TAL】 ⁽³⁾⁽⁴⁾ (百万豪ドル)	【その他】 ^(注) (連結調整仕訳含む) (億円)	【連結】 ^(注) (億円)
	17/3末	17/3末	16/12末	17/3末		17/3末
資産の部合計	356,866	67,424	75,005	7,178	2,032	519,858
うち現預金・コール	5,369	1,098	350	1,559	1,590	9,804
うち有価証券	304,981	62,149	56,237	2,830	1,437	436,509
うち貸付金	26,578	-	7,784	-	18	35,666
うち有形固定資産	11,244	2	114	0	4	11,384
うち無形固定資産	877	40	2,937	1,178	△1,018	4,332
うちのれん	-	-	793	786	△1,019	579
うちその他の無形固定資産	225	0	2,122	392	△0	3,033
うち再保険貸	22	611	161	131	△21	912
負債の部合計	332,050	66,321	69,533	4,887	4,919	488,485
うち保険契約準備金	308,647	64,190	60,702	3,525	364	446,941
うち再保険借	7	1,561	247	290	△20	2,086
うち社債	4,762	-	4,230	240	-	9,897
うちその他負債	10,047	399	2,641	734	4,365	18,520
純資産の部合計	24,816	1,103	5,471	2,291	△2,887	31,372
うち株主資本合計	5,612	930	6,126	2,291	△2,637	13,007
うち資本金	600	1,175	0	1,630	256	3,431
うち資本剰余金	4,700	675	5,554	-	△8,547	3,297

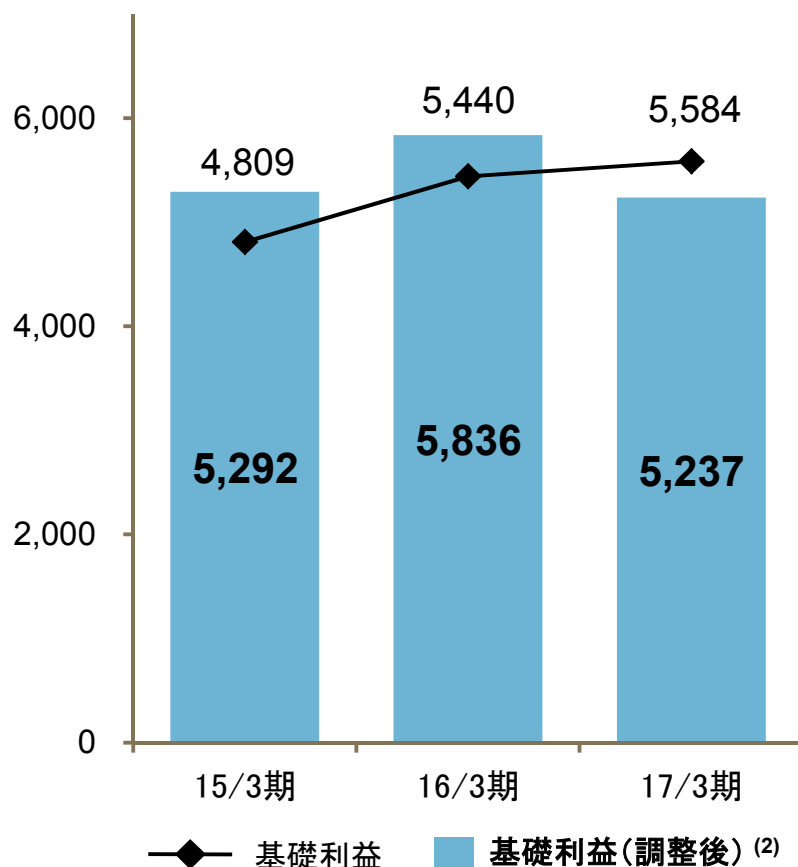
(注) その他および連結の数値には、本表に記載以外の連結各社に関する数値等が含まれています。



第一生命グループ業績 - 基礎利益の状況

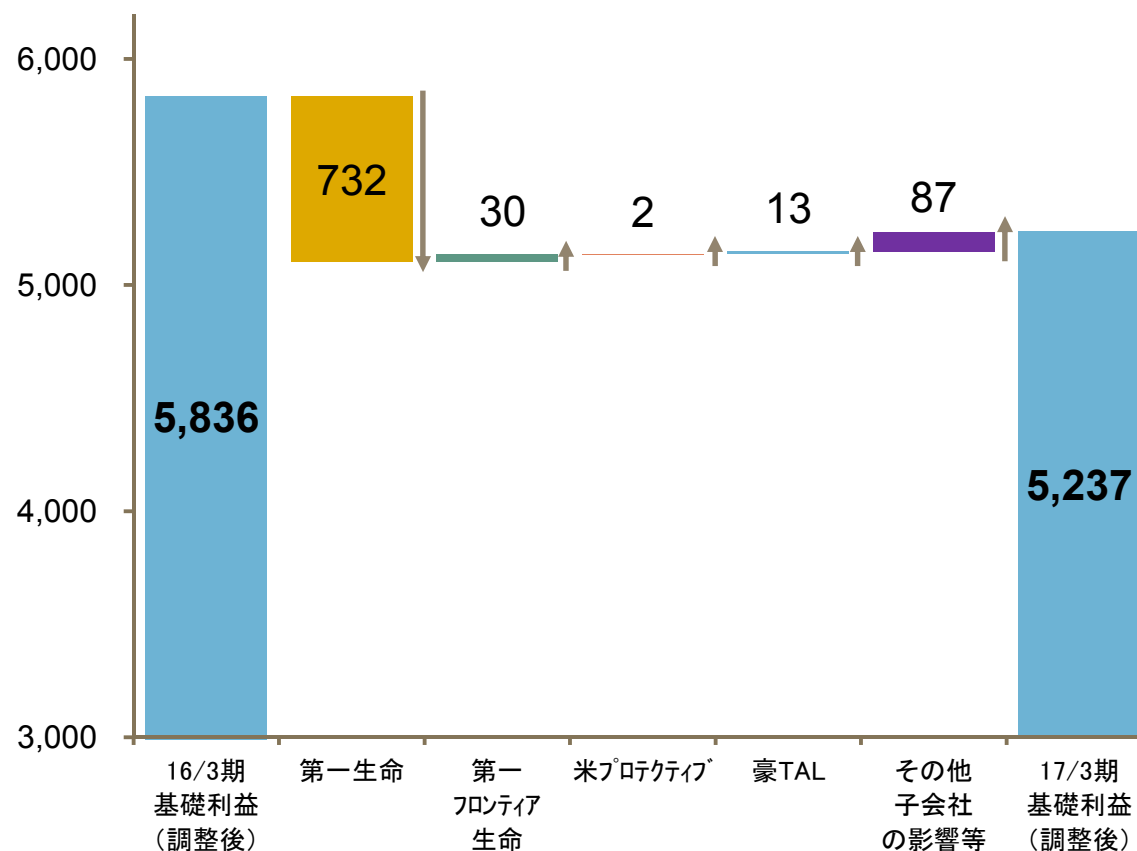
基礎利益 (1)(2)

(億円)



基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)

(億円)



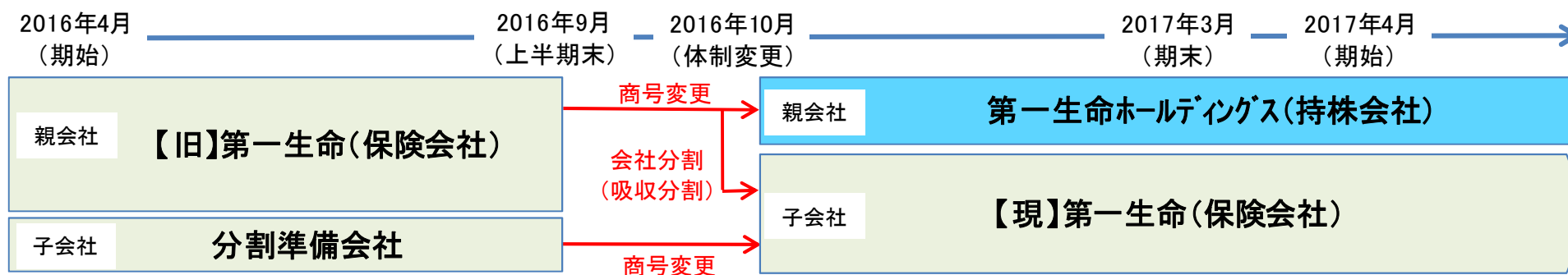
(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期は7-3月の数値)の基礎利益、米プロテクトティブの税引前営業利益(16/3期、17/3期のみ)、TALの基礎的収益力(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益、関連会社の持分利益(税引前換算)等を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く



上場会社単体としての2018年3月期業績予想

- 当社は2016年10月1日付で持株会社体制へ移行しました。持株会社体制移行前は第一生命として上場しておりましたが、持株会社体制移行後は「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更の上、上場を継続しております。
- 第一生命ホールディングスの収支は、営業収益が子会社からの配当収入や経営管理料が主要項目となり、営業費用は持株会社運営費用が主要項目となります。第一生命ホールディングスの2018年3月期の業績予想は以下の通りです。



第一生命ホールディングス(持株会社)		
	(億円)	
	17/3期 2016年10月1日～2017年3月31日	18/3期(予)
営業収益	218	590
経常利益	162	450
当期純利益	171	410



脚注

- 2016年10月1日の持株会社体制への移行に伴い、第一生命の2017年3月期業績については、旧第一生命及び第一生命分割準備会社の上半期業績と現第一生命の下半期業績を単純合算した未監査の数値を記載しています。
- Protective Life Corporation(プロテクティブ)は、第一生命グループが2015年2月1日に完全子会社化しました。プロテクティブの決算日は12月31日であるため、12月末の為替レートで円換算した実績を第一生命グループの翌年3月期の連結業績に反映しています。なお、2016年3月期の連結業績は、プロテクティブの2015年2月1日から同12月31日までの11ヶ月の実績を連結対象としています。当資料に掲載されているプロテクティブに関する財務諸表は米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。
- 当資料で豪TALとは、連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)を示しています。豪TALの決算日は3月31日であるため、3月末の為替レートで円換算した実績を第一生命グループの同年3月期の連結業績に反映しています。当資料に掲載されているTALに関する財務諸表は修正利益を除き、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。
- 外国企業の業績の連結にあたり、適用した主要為替レートは以下の通りです。

(円)

	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期
円/米ドル	—	—	—	120.61	116.49
円/豪ドル	97.93	95.19	92.06	86.25	85.84
円/越ドン	0.0042	0.0050	0.0056	0.0054	0.0051

- 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
- 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。第一生命ベトナムの業績は、12月末の為替レートで円換算した実績を第一生命グループの翌年3月期の連結業績に反映しています。
- 調整の対象となる勘定科目のうち、危険準備金、価格変動準備金の法定超過繰入・戻入の調整に使用した税率は以下の通りです。

	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期
第一生命	30.68%	30.68%	28.76%	27.92%	27.92%
第一フロンティア生命	—	—	—	—	—

- 調整の対象となる勘定科目のうち、市場価格調整その他の調整に使用した税率は以下の通りです。

	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期
第一生命	33.23%	33.23%	30.68%	28.76%	28.16%
第一フロンティア生命	—	—	—	10.09%	16.44%

- 第一生命グループは、2016年10月1日付で持株会社体制へ移行しました。持株会社体制移行前に第一生命保険株式会社が保有していた子会社・関連会社からの配当金は、第一生命保険株式会社の利息配当金等収入として計上されているため、会社別の修正利益の計算にあたって調整を行っています。
- のれん償却額には、連結キャッシュフロー計算書に表記されている連結子会社ののれんに係る償却額に加え、関連会社ののれんに係る償却額を含みます。
- 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、資産運用損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分を除きます。
- 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。
- 以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。益又は損が発生していますが、業績に大きな影響を与えるものではありません。(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)



本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IRグループ

電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2017年3月期決算報告 財務・業績の概況

①契約の状況等

		2016年3月末	2016年9月末	2017年3月末
新契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	387,292 (+14.2)	195,378 (+10.5)	440,748 (+13.8)
うち第一生命分	(百万円)	140,645 (△ 3.4)	77,767 (+22.9)	196,162 (+39.5)
うち第三分野	(百万円)	51,249 (+ 7.7)	23,418 (△ 6.2)	60,292 (+17.6)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	153,832 (△ 6.2)	89,186 (+ 9.3)	174,167 (+13.2)
うちプロテクティブ	(百万円)	35,685 (-)	15,745 (△ 2.2)	35,310 (△ 1.0)
うちTAL	(百万円)	49,484 (+104.8)	8,183 (△36.8)	21,878 (△55.8)
保有契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	3,396,202 (+ 5.6)	3,372,291 (+ 2.8)	3,633,488 (+ 7.0)
うち第一生命分	(百万円)	2,065,032 (+ 1.3)	2,085,732 (+ 2.1)	2,147,245 (+ 4.0)
うち第三分野	(百万円)	576,556 (+ 3.7)	585,069 (+ 3.4)	606,332 (+ 5.2)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	565,838 (+25.2)	615,426 (+22.7)	712,750 (+26.0)
うちプロテクティブ	(百万円)	511,128 (+ 2.1)	446,292 (△13.9)	510,764 (△ 0.1)
うちTAL	(百万円)	229,956 (+10.8)	200,130 (+ 2.2)	229,028 (△ 0.4)
連結保険料等収入	(百万円)	5,586,000 (+ 2.8)	2,270,663 (△18.6)	4,468,736 (△20.0)
保険料等収入(第一生命分)	(百万円)	2,866,602 (△12.2)	1,314,251 (△ 6.6)	2,547,581 (△11.1)
うち個人保険分野	(百万円)	1,923,189 (△11.0)	934,190 (+ 3.0)	1,766,829 (△ 8.1)
うち団体保険分野	(百万円)	908,513 (△15.1)	363,863 (△24.6)	747,705 (△17.7)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	1,873,070 (△ 1.4)	540,692 (△45.5)	988,874 (△47.2)
うちプロテクティブ	(百万円)	565,658 (-)	277,208 (+ 6.3)	623,631 (+10.2)
うちTAL	(百万円)	260,558 (+ 3.1)	128,044 (+ 5.1)	279,138 (+ 7.1)
保有契約高(国内グループ生保合算値)	(百万円)	131,497,494 (△ 3.7)	128,883,629 (△ 3.5)	127,524,320 (△ 3.0)
うち第一生命分	(百万円)	124,721,652 (△ 4.8)	122,076,933 (△ 4.3)	120,059,784 (△ 3.7)
解約・失効高(国内グループ生保合算値)	(百万円)	5,288,048 (△10.8)	2,383,135 (△13.4)	4,738,451 (△10.4)
うち第一生命分	(百万円)	5,065,766 (△10.3)	2,285,706 (△12.4)	4,568,907 (△ 9.8)
解約・失効率(国内グループ生保合算値)	(%)	3.87	1.81	3.60
うち第一生命分	(%)	3.87	1.83	3.66

* ()内は前年同期比増減率

(注) 1. グループとは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクティブ、TAL、第一生命ベトナムの6社。国内グループ生保とは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の3社

2. プロテクティブ及び第一生命ベトナムの決算日は12月31日

3. 新契約年換算保険料(以下、新契約ANP)及び保有契約年換算保険料(以下、保有契約ANP)のうち、プロテクティブは損害保険事業、TALは団体保険を含む

プロテクティブの損害保険事業	: 2016年3月期	新契約ANP 8,931百万円	保有契約ANP 28,574百万円
	: 2017年3月期第2四半期	新契約ANP 4,174百万円	保有契約ANP 24,245百万円
	: 2017年3月期	新契約ANP 9,430百万円	保有契約ANP 31,839百万円
TALの団体保険	: 2016年3月期	新契約ANP 29,484百万円	保有契約ANP 142,765百万円
	: 2017年3月期第2四半期	新契約ANP △1,415百万円	保有契約ANP 118,676百万円
	: 2017年3月期	新契約ANP 526百万円	保有契約ANP 134,183百万円

* TALの新契約ANPには、既契約における保険料改定等に伴う年換算保険料の増減を含む

4. 保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金、団体保険分野は団体保険+団体年金の合計保険料(再保険収入は含まない)

5. 保有契約高、解約・失効高、解約・失効率は個人保険+個人年金保険

6. 解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出、主契約が継続している「減額」「特約解約」は含まない。解約・失効率は契約高ベース

②資産の状況等

		2016年3月末	2016年9月末	2017年3月末
連結総資産	(億円)	499,249 (+ 0.2)	497,418 (△ 0.3)	519,858 (+ 4.1)
連結実質純資産額	(億円)	102,279 (+ 8.5)	103,961 (+ 20.9)	99,400 (△ 2.8)
連結ソルベンシー・マージン比率	(%)	763.8	852.7	749.2

* ()内は前年同期比増減率

③基礎利益・順ざや・利回り等

		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期予想
グループ基礎利益	(百万円)	544,049 (+13.1)	558,473 (+ 2.7)	4,800億円程度
うち 国内グループ生保合算値	(百万円)	467,443 (+ 3.3)	472,837 (+ 1.2)	3,900億円程度
うち 第一生命	(百万円)	465,441 (+ 1.6)	392,199 (△ 15.7)	3,400億円程度
うち 第一フロンティア生命	(百万円)	9,138 (-)	86,504 (+846.6)	500億円程度
うち ネオファースト生命	(百万円)	△ 7,136 (-)	△ 5,866 (△ 17.8)	マイナスの見込み
うち 海外グループ生保合算値	(百万円)	82,660 (+250.4)	84,101 (+ 1.7)	横ばいの見込み
うち プロテクティブ	(百万円)	58,428 (-)	58,637 (+ 0.4)	横ばいの見込み
うち TAL	(百万円)	20,788 (+ 7.8)	22,101 (+ 6.3)	横ばいの見込み
うち その他(アセットマネジメント事業等)	(百万円)	9,686 (△ 4.4)	8,081 (△ 16.6)	横ばいの見込み

(注). グループ基礎利益は、第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の基礎利益、プロテクティブの税引前営業利益、TALの基礎的な利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益、関連会社の持分利益(税引前換算)等を合算し、グループの内部取引の一部を相殺した数値を掲載。

* ()内は前年同期比増減率

		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期予想
順ざや額(国内グループ生保合算値)	(億円)	1,064 (+ 320)	883 (△ 180)	縮小の見込み
うち 第一生命	(億円)	978 (+ 286)	721 (△ 256)	縮小の見込み
うち 第一フロンティア生命	(億円)	85 (+ 33)	161 (+ 76)	縮小の見込み
うち ネオファースト生命	(億円)	△ 0 (-)	△ 0 (△ 0)	横ばいの見込み

(注). 負債の場合は逆ざや額

* ()内は前年同期比増減率

		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期予想
基礎利益上の運用収支等の利回り(第一生命)	(%)	2.76	2.59	低下の見込み
運用利回り(一般勘定)(第一生命)	(%)	2.50	2.21	横ばいの見込み
平均予定利率(第一生命)	(%)	2.41	2.34	低下の見込み

④基礎利益の内訳
(国内グループ生保合算値)

		2016年3月期	2017年3月期
基礎利益	(百万円)	467,443 (+ 14,970)	472,837 (+ 5,393)
順ざや額	(百万円)	106,402 (+ 32,036)	88,340 (△ 18,061)
最低保証に係る責任準備金等の増減による影響	(百万円)	△ 39,558 (+ 8,687)	34,748 (+ 74,306)
保険関係損益	(百万円)	400,599 (△ 25,753)	349,748 (△ 50,851)

(注) 最低保証に係る責任準備金等の増減による影響とは、最低保証に係る責任準備金の増減による影響と、市場価格調整に伴う責任準備金の増減による影響を合算した数値
(最低保証に係る責任準備金等を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因になり、戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になる) * ()内は前年同期比増減実額

(第一生命)

		2016年3月期	2017年3月期
基礎利益	(百万円)	465,441 (+ 7,199)	392,199 (△ 73,242)
順ざや額	(百万円)	97,876 (+ 28,672)	72,186 (△ 25,689)
最低保証に係る責任準備金等の増減による影響	(百万円)	439 (△ 633)	449 (+ 10)
保険関係損益	(百万円)	367,125 (△ 20,839)	319,562 (△ 47,562)
うち危険差益	(百万円)	325,175 (△ 6,665)	321,849 (△ 3,325)

* ()内は前年同期比増減実額

⑤準備金(国内グループ生保合算値)

		2016年3月末	2016年9月末	2017年3月末
責任準備金(除く危険準備金)	(百万円)	35,235,087 (+ 1,265,103)	35,350,402 (+ 956,609)	35,951,148 (+ 716,060)
うち一般勘定(除く危険準備金)	(百万円)	32,125,703 (+ 1,441,857)	32,284,265 (+ 1,046,643)	32,751,048 (+ 625,344)
うち特別勘定(除く危険準備金)	(百万円)	3,109,384 (△ 176,753)	3,066,137 (△ 90,034)	3,200,100 (+ 90,715)
価格変動準備金	(百万円)	155,246 (+ 18,992)	164,747 (+ 19,261)	174,677 (+ 19,430)
危険準備金	(百万円)	691,167 (+ 12,303)	699,941 (+ 19,575)	709,561 (+ 18,394)
うち危険準備金Ⅰ	(百万円)	137,610 (△ 10,535)	135,088 (△ 5,809)	133,222 (△ 4,388)
うち危険準備金Ⅱ	(百万円)	303,541 (+ 27,680)	315,444 (+ 26,085)	324,597 (+ 21,056)
うち危険準備金Ⅲ	(百万円)	77,250 (△ 8,530)	75,016 (△ 4,714)	74,069 (△ 3,181)
うち危険準備金Ⅳ	(百万円)	172,764 (+ 3,688)	174,392 (+ 4,015)	177,672 (+ 4,908)
危険準備積立金	(百万円)	43,120 (-)	43,120 (-)	0 (△ 43,120)
価格変動積立金	(百万円)	65,000 (-)	65,000 (-)	0 (△ 65,000)

(注) 危険準備積立金・価格変動積立金は、剰余金処分後の残高を記載

* ()内は前年同期比増減実額

⑥含み損益(第一生命)

		2016年3月末	2016年9月末	2017年3月末
有価証券	(百万円)	6,212,010 (+ 720,301)	6,012,098 (+ 1,290,459)	5,491,034 (△ 636,602)
うち国内株式	(百万円)	1,312,806 (△ 472,864)	1,230,874 (△ 283,966)	1,687,866 (+ 375,059)
うち国内債券	(百万円)	4,022,989 (+ 1,786,144)	4,141,558 (+ 1,924,737)	3,243,987 (△ 779,001)
うち外国証券	(百万円)	850,834 (△ 550,054)	637,301 (△ 321,104)	520,067 (△ 246,393)
不動産	(百万円)	130,341 (+ 54,758)	136,690 (+ 51,921)	166,723 (+ 36,381)
その他共計	(百万円)	6,334,647 (+ 783,938)	6,171,350 (+ 1,379,935)	5,637,050 (△ 613,222)

(注) 不動産の含み損益は国内不動産(含む借地権)を対象とし、再評価前の水準

* ()内は前年同期比増減実額、但し2017年3月末の前年同期比増減額は、HD化による影響を除いた数値

⑦運用実績と計画(第一生命)

		2016年度実績	2017年度計画
国内株式	(百万円)	341,943	株価水準次第
国内債券	(百万円)	△ 320,563	減少
外国株式等	(百万円)	△ 154,790	増加
外国債券	(百万円)	1,352,263	金利水準・為替水準次第
不動産	(百万円)	△ 41,171	増加

(注) 1. 貸借対照表価額ベース

(注) 2. 2016年度実績は、HD化による影響を除いた数値

⑧資産の含み損益がゼロになる水準(第一生命)

		2017年3月末時点
国内株式(日経平均)	(円)	9,400
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	760
国内債券	(%)	1.3
外国証券	(円)	105

(注) 1. 株式は日経平均およびTOPIXに連動させ、株式の評価基準にあわせて算出

2. 国内債券は10年新築国債利回りにて換算し、小数点第1位まで算出

3. 外国証券はドル円換算にて算出

⑨2018年3月期の業績見通し

		2018年3月期予想
連結保険料等収入		減少の見込み
グループ基礎利益		4,800億円程度
保有契約年換算保険料(グループ)		増加の見込み
保有契約高(国内グループ生保合算値)		減少の見込み

⑩従業員数(第一生命)

		2016年3月末	2016年9月末	2017年3月末
営業職	(人)	42,983 (+ 1.7)	44,656 (+ 4.2)	45,080 (+ 4.9)
内勤職	(人)	11,634 (△ 1.6)	12,068 (+ 0.3)	11,158 (△ 4.1)

(注) 従業員数(営業職)には、当社と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしているもので、その他補助的業務に従事するものを含む

* ()内は前年同期比増減率

⑪配当の状況(2017年3月期決算に基づく配当準備金繰入額)

		2016年3月期決算に基づく 配当準備金繰入額	2017年3月期決算に基づく 配当準備金繰入額
個人保険	(百万円)	16,439 (+33.7)	10,550 (△ 35.8)
個人年金	(百万円)	1,404 (+75.5)	2,327 (+65.8)
団体保険	(百万円)	62,367 (+5.0)	63,675 (+2.1)
団体年金	(百万円)	15,694 (△ 58.7)	6,841 (△ 56.4)

* ()内は前年同期比増減率

⑫金融機関窓販の状況(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

			2016年3月期	2017年3月期
変額年金保険	新契約件数	(件)	132,755 (△ 20.6)	52,613 (△ 60.4)
	金額(収入保険料)	(百万円)	775,443 (△ 21.0)	274,341 (△ 64.6)
定額年金保険	新契約件数	(件)	12,912 (△ 31.2)	34,665 (+ 168.5)
	金額(収入保険料)	(百万円)	61,252 (△ 30.3)	214,315 (+ 249.9)

(注) 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫

* ()内は前年同期比増減率

			2016年3月期	2017年3月期
変額一時払 終身保険	新契約件数	(件)	39,358 (+ 6,890.8)	14,940 (△ 62.0)
	金額(収入保険料)	(百万円)	284,624 (+ 3,287.3)	126,855 (△ 55.4)
定額一時払 終身保険	新契約件数	(件)	74,755 (△ 11.1)	31,910 (△ 57.3)
	金額(収入保険料)	(百万円)	550,027 (△ 12.7)	233,420 (△ 57.6)

(注) 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫

* ()内は前年同期比増減率

その他質問項目(2017年3月期)

○変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金繰入・戻入の状況

			2016年3月期	2016年9月期	2017年3月期
変額年金保険等の 最低保証に係る 一般勘定の 責任準備金繰入・戻入	第一生命	(億円)	2	1	△ 0
	第一フロンティア生命	(億円)	315	293	29
	第一、第一フロンティア合算値	(億円)	317	294	28

(注) 繰入額についてはプラスで表示、戻入額についてはマイナスで表示